

平成 30 年 11 月 8 日
産 業 経 済 局

指定管理者候補の選定結果について（一覧）

No.	施設名	指定管理者候補	指定期間		担当課	頁
1	北九州市立商 工貿易会館	北九州商工会議所	5 年	平成 3 1 年 4 月 1 日～ 平成 3 6 年 3 月 3 1 日	産業政策課	1
2	北九州市小倉 城 小倉城庭園	北九州まちづくり マネジメントチー ム共同事業体	3 年	平成 3 1 年 4 月 1 日～ 平成 3 4 年 3 月 3 1 日	観光課	13
3	北九州国際展 示場 北九州国際会 議場	公益財団法人北九 州観光コンベンシ ョン協会	5 年	平成 3 1 年 4 月 1 日～ 平成 3 6 年 3 月 3 1 日	M I C E 推 進課	37
4	釣り台付き遊 歩道	ひびき灘漁業協同 組合	5 年	平成 3 1 年 4 月 1 日～ 平成 3 6 年 3 月 3 1 日	水産課	115

平成30年11月8日
産業経済局産業政策課

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成30年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名 称：北九州市立商工貿易会館
所在地：小倉北区古船場町1番35号
施設概要：1階…エントランスホール、事務室、管理室、警備員室
2階…多目的ホール
3～7階…事務室、会議室（5室、3・5・6・7階）
事業内容：商工業及び貿易に関する相談、情報提供等の事業を行うとともに、
中小企業団体及び貿易関係団体に対し、相互の連携を図る場を提供
することにより、商工業及び貿易の振興を図る。

(2) 指定期間

平成31年4月1日～平成36年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

名 称：北九州商工会議所
所在地：北九州市小倉北区紺屋町13-1
主な業務内容：商工会議所法に基づいて設立された地域総合経済団体として、
市内事業者の支援だけでなく、市の活性化や住みやすい街づくりなど市全体の発展のため、行政や会員企業、各種団体と協力
して各種事業を展開
①意見・要望活動 ②観光振興 ③中小企業の経
営力強化支援 ④中心市街地の活性化と地域商店街の振興
⑤新成長産業の支援

2 指定の経緯

平成30年8月21日 募集要項配布
平成30年9月28日 募集締め切り
平成30年10月22日 指定管理者検討会の開催

(1) 応募資格

- ①法人、その他の団体であること。(個人による応募は不可)
- ②本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対応を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ③募集説明会に参加していること。(共同事業体で応募する際は、代表団体が募集説明会に参加していること。)

(2) 応募状況

説明会参加：1 団体

応募件数：1 団体（北九州商工会議所）

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会の検討結果を参考に指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- ・ [学識経験者] 阿部 容子
(北九州市立大学外国語学部国際関係学科、准教授)
- ・ [学識経験者] 中島 香子
(中島香子税理士事務所、税理士)
- ・ [学識経験者] 福地 秀寿
(株式会社日本政策金融公庫北九州支店、
支店長兼中小企業事業統轄)
- ・ [入居団体代表] 渡邊 真緒里
(福岡県信用保証協会北九州支店保証1課、課長)
- ・ [入居団体代表] 橋上 浩通
(公益財団法人北九州活性化協議会、事務局長)

5 選定基準等

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1 指定管理者としての適性	
（１）施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	
①	市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
（２）安定的な人的基盤や財政基盤	
①	長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
（３）実績や経験など	
①	同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。
②	施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。
③	複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2 管理運営計画の適確性	
【有効性】	
（１）施設の設置目的の達成に向けた取組み	
①	施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。
②	施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。
③	施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。
（２）利用者の満足度	
①	利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。
②	利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。
③	利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。
④	利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。
⑤	その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】	
（３）指定管理業務に係る費用	
①	指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。
②	収入が最大限確保される提案であるか。
（４）収支計画の妥当性及び実現可能性	
①	収入を増加するための実施可能な提案があるか。
②	経費の配分は適切であるか。
③	積算根拠は明確であるか。
④	再委託が適切な水準で行われているか。
【適正性】	
（５）管理運営体制など	
①	施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
②	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。

		③ 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
		④ 職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
		⑤ 地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
		(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など
		① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。
		② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
		③ 日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
		④ 防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

【評価レベル】

評価 レベル	乗 率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル					検討会 審査結果	得点
			構成員						
			A	B	C	D	E		
北九州 商工 会議所	1 指定管理者としての適性								
	(1) 施設の管理運営に対する 理念、基本方針	5	5	4	3	4	5	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政 基盤	5	5	5	4	4	5	5	5
	(3) 実績や経験など	5	5	5	4	4	5	5	5
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 施設の設置目的の達成 に向けた取組み	15	3	4	3	3	3	3	9
	(2) 利用者の満足度	10	4	4	3	3	4	4	8
	【効率性】								
	(3) 指定管理業務に係る費 用	30	3	3	3	4	4	3	18
	(4) 収支計画の妥当性及び 実現可能性	10	4	4	3	4	5	4	8
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制など	10	3	3	3	4	5	4	8
	(6) 平等利用、安全対策、危 機管理体制など	10	4	5	3	3	4	4	8
合 計		100	72	76	62	73	84	—	73
優秀指定管理者に対する優遇措置（0点）									0
地元団体に対する優遇措置（5点）									78

(2) 検討会における主な意見

- ・北九州商工会議所は公益性の高い経済団体であることから、その業務内容は、会館の運営目的とも合致しており、指定管理者としての適性は十分である。
- ・また、長年の実績と現指定管理者の経験は十分に考慮に値するものであり、安心して管理を任せられる団体である。
- ・ホームページの工夫等による効果的な情報発信や、会議所独自のネットワークを活用した新たな利用促進企画の立案等、ソフト面の強化を期待したい。

(3) 検討会における検討結果

- ・会議所の経済団体としての公的性格と、会館の管理に関する長年の実績から、指定管理者として適しているという意見で一致した。
- ・これまでの管理の実績と団体の特徴を活かしながら、IT等を活用した情報発信の工夫や、会館の利用促進につながる新たな企画立案等を期待したいとの意見を得た。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、北九州商工会議所を指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・現在の指定管理者として実績があり、また更に当施設について通算 29 年間管理を受託しており、実績と経験は十分である。
- ・安定した財政基盤をもち、施設の適切な管理に必要な有資格者や経験者を確保している。
- ・現在の指定管理期間において、会議室等の利用件数は増加傾向にある。会議所独自の媒体やネットワークを活用した広報・誘致活動や、無料 Wi-Fi の設置などの環境整備、丁寧な窓口対応等により利用促進に一定の成果をあげており、今後も安定的な稼働を見込むことができる。

8 提案額

平成 31 年度	71,760 千円
平成 32 年度	71,760 千円
平成 33 年度	71,760 千円
平成 34 年度	71,760 千円
平成 35 年度	71,760 千円

北九州市立商工貿易会館指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	(指定管理者候補団体)	北九州商工会議所
1 指定管理者としての適性について		(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針 ①公益法人としての立場に立脚し、公平な管理を行い、サービス向上に努めること。 ②来館者が安心・安全に利用できる管理体制(警備・設備・清掃)を整えること。 ③市内の企業・団体・市民に利用促進を働きかけ、貸室・ホールの稼働率を向上すること。 ④徹底した経費の削減を図り貴市の財政に寄与すること。 (2) 安定的な人的基盤や財政基盤 ＜安定的な人的基盤＞ 商工貿易会館には3名の職員を配置しており、必要に応じて商工会議所のバックアップ体制が常に整っている。 ＜安定した財政基盤＞ 会議所の主な収入は、市内会員企業から徴収する会費と各種手数料による事業収入及び国・県・市等からの委託金・補助金によって運営されている。当所の財政は常に黒字で推移し、正味財産についても平成28年度の11億7,370万円から、平成29年度末においては12億544万円へと順調に推移している。 (3) 実績や経験など 当所は本所のある毎日西部会館(毎日新聞社との共同ビル)を会館竣工以来53年間に亘って所有するホールや会議室を管理運営、また、北九州市立商工貿易会館の管理運営業務については、通算29年間に亘って受託し、施設の管理運営を熟知している。
2 管理運営計画の適確性	【有効性】に関する取り組み	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み ①商工貿易会館の入居団体及び他団体との有機的連携を図る。 ②会議所の広報媒体を活用して広く市内の企業・団体に利用促進を働きかける。 (2) 利用者の満足度 ・テナントへのアンケート調査 ・会館利用者へのアンケート調査 ・テナントへの情報提供 ・会議室利用者への施設の説明 ・会議所の職員研修によるマナー向上

	(1) 指定管理料及び収入 ① 施設の維持管理業務 (清掃業務、警備業務、設備等保守点検業務、衛生環境業務の実施) ② 施設の利用促進に関する業務 (貸会議室利用に関する業務、事務室使用料徴収業務) ③ 施設のその他管理運営に関する業務 (事業計画書、収支計画書、業務報告書等の作成) (2) 収支計画の妥当性及び実現可能性 ① 水道光熱費の節約 ② 委託契約に関する経費の見直し ③ 事務用品、印刷費等の工夫 ④ 自主事業(自動販売機手数料の有効活用) ⑤ 会議所の電子決裁システムを活用 提案金額 <table><tr><td>平成31年</td><td>71, 760千円</td></tr><tr><td>平成32年</td><td>71, 760千円</td></tr><tr><td>平成33年</td><td>71, 760千円</td></tr><tr><td>平成34年</td><td>71, 760千円</td></tr><tr><td>平成35年</td><td>71, 760千円</td></tr></table>	平成31年	71, 760千円	平成32年	71, 760千円	平成33年	71, 760千円	平成34年	71, 760千円	平成35年	71, 760千円
平成31年	71, 760千円										
平成32年	71, 760千円										
平成33年	71, 760千円										
平成34年	71, 760千円										
平成35年	71, 760千円										
	(1) 管理運営体制など ① 商工会議所の定款および諸規則に沿って業務を遂行する。 ② 商工貿易会館管理特別会計を設け、商工会議所の最高意思決定機関である議員総会の承認により(予算・決算)、経理処理をする。 ③ 総務企画部に会館担当係を設け、会議所の1組織として位置づけ、適切な管理運営を行なう。 (2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など ① 商工会議所の基本理念の「商工業の改善発達に資する」という目的と公益法人であるという考えに沿って、公平な管理運営を目指す。 ② 個人情報の保護や守秘義務を遵守し、防犯・防災対策等にも積極的に取り組み、館内の備品等も厳重な管理を行なう。 ③ 「地方自治法」、「労働基準法」、「労働安全衛生法」、「北九州市産業観光施設の設置及び管理に関する条例」、「商工貿易会館管理要綱」その他関係法令等を遵守し、会館運営を行なう。										

北九州市立商工貿易会館 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月22日（月） 14:00～15:00
- 2 場 所 北九州市立商工貿易会館 701会議室
- 3 出席者 （検討会構成員） 阿部構成員、中島構成員、福地構成員、
渡邊構成員、橋上構成員
（事務局） 産業経済局
岩見新成長戦略推進部長、井村生産性改革担当係長
中村職員
- 4 会議内容
 - 検討会開催前に、応募団体から提出された提案書等を配布、検討会の位置付け及び選定基準、採点等の注意事項について、事務局より説明をし、指定管理者候補検討シートに評価を依頼
 - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明
 - 構成員の互選により、座長を選出（阿部構成員）
 - 応募団体(北九州商工会議所)が提案内容についてプレゼンテーション実施後、質疑応答

（構成員） 2つ質問があり、1つは収支計画書の支出の見積もりを見たところ、いわゆる一般管理費の利益分がこの中に入っていないように思うがどうなのか。もう1つ、施設の設置目的の達成に向けた取組みの管理運営方針について、事業計画について商工会議所そのものの計画の内容になっていて、今回の商工貿易会館に対しての取組についての内容がやや薄いように思う。

（応募団体） 最初の質問は、商工会議所の考えとして、委託金は全て管理運営に充てる。利益は追求していない。

（応募団体） 2つ目の質問について、施設の管理運営方針については、ご指摘のとおり商工会議所の事業計画がベースとなっているところはある。ただ、この会館に特化した経費の削減策であるとか、人員体制であるとかというのを盛り込んでいる。

（構成員） 利用者の満足度向上の取組みということで、利用者からの苦情はあったのか。あった場合には、こういった対策を打たれたか教えてほしい。

（応募団体） 空調の温度調整が各部屋でできないという苦情が一番多い。これは構造

的な問題で、各階ごとしか調整できない。部屋ごとに温度を調整できないのかというのが一番多い。それはもう理解していただくしかないと思っている。

（構 成 員）ハード面の問題ということか。

（応募団体）はい。

（構 成 員）それ以外に、貸会議室を実際に使っている利用者からは、特段苦情はなかったということか。

（応募団体）特にない。

（構 成 員）貸会議室の話が続いていたと思うが、大きなイベントができる所でもあるし、テナント間の連携とか、地域との連携とか、学校・大学等、あるいは中小企業の民間とか、いろいろな横断的な取組ができる場所と思う。それぞれ単独の団体では、イメージできない使い方というのを、商工会議所のネットワーク、ノウハウを活用することによって、ニーズというものを掘り起こせるのではないかと感じる。やはり、必要に応じて本所のバックアップ体制が整っているメリットを発揮していただきたいと思うが、提案書では、利用促進策についてこれまでと同じような感じを受けたので、何か提案・検討しているようなこととかはあるか。

（応募団体）特に今のところ新たな企画は考えていないが、例えば、会議室については、商工会議所の事業でも活用するようにしている。また、毎日西部会館の予約が一杯の時は、本所から商工貿易会館を紹介するようにしている。

（構 成 員）利用促進の側面からいうと、ホームページが、商工貿易会館に関しては、かなり貧弱のような気がする。例えば、予約ができないとか、空きや部屋自体の詳細な情報が分からないとか。

（応募団体）空き状況は見られるが。

（構 成 員）リアルタイムでは分からない。要するに、ホームページの活用については検討されているのか。

（応募団体）ホームページの使い方は、今後、考えていきたい。商工会議所本体もあるので、うまく連携して、少しでもが利用促進につながるようなホームページ作りを目指したい。また、商工会議所のイベントや、ほかの地域団体のイベントについて、商工貿易会館を利用いただくよう、提案は積

極的にやっていきたいと考えている。

(質疑応答終了。応募団体退室)

- 提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて、各自得点を記入。その後、発表された得点や当日の質疑応答等の内容を踏まえて意見交換

(構成員) 商工貿易会館に入居しているが、朝はとても丁寧に掃除をしてくれていて、挨拶もとても丁寧にしていただいている。管理のスタッフについて、指導が行き届いているからではないかなと思い、その辺については非常に高く評価している。ただ、なにせ築 30 年以上と老朽化している。トイレや空調といった設備の問題はしょうがないのかなと思っていて、管理の在り方自体には、ある程度、高得点の評価をしている。

(構成員) 経費の削減というと、大体光熱費を挙げられているがエアコンとかの空調とかを節減する方向での経費の削減があっているのかなと。光熱費を下げるとなると、やはり使っている方はちょっと不便になるのでは。

(構成員) 実際には、暑い中、突然空調が止まるというようなトラブルはない。

(構成員) トイレの故障等、すぐに直してくれるとか、テナントへの対応状況については評価したが、設備が古いから不具合がある部分は省いて評価した。

(構成員) 利用促進については、メルマガやホームページは、かなり目的をもってみないと目に触れないので、このやり方ではちょっと厳しいのでは。

(構成員) 商工会議所のホームページを見ると、イベント・セミナーがたくさん掲載されていて、北九州市内に他にも貸会議室等がたくさんあることを考えると、商工貿易会館の稼働率はまだあげられると思う。やはり独自に工夫がもう一段階必要かなと思う。ここの指定管理者を長くしているので、安定感是非常に高いが、その分変化が少ないというか、踏み込んだ提案がないというところが気になる。その辺を強く意識してほしいと思う。

(構成員) 長いこと管理されているから安定感はあるが、その分管理はルーティン化してしまうので、積極的に新しい目線で改善を図る姿勢が必要だと思う。

(構成員) 地域団体とか、あるいは大学等、商工会議所が持っているネットワークもあると思うので仲介に商工会議所が入ってくればスムーズに進むよ

うな企画もあると思う。ぜひ、そういう面でノウハウを発揮していただきたいという期待を込めて、頑張ってもらいたいと思う。

- 意見交換を行った後、各構成員の採点結果を取りまとめた。その後、総評、付帯意見等で意見を求めた後、検討会を終了した。

(構 成 員) 全体としては、長年の実績と現在の指定管理者であるという経験というものが、十分に考慮に値するものであるということで、これからも安心して管理団体として任せられる団体であることは間違いない。

ホームページの工夫等 IT 活用による効果的な情報発信や、会議所独自のネットワークを活用した新たな利用促進等を期待したい。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により、議会の議決を経る必要があり、平成30年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

①名 称：北九州市小倉城（大手門前施設「しろテラス」を含む）

所在地：北九州市小倉北区城内2番1号

構 造：天守閣 鉄筋コンクリート本瓦葺5層

しろテラス 鉄骨造平屋建

着見櫓 木造2階建

事業内容：歴史的な展示や体験施設、祭りや諸行事を通して、市民や観光客に健全な憩いの場を提供する。

②名 称：小倉城庭園

所在地：北九州市小倉北区城内1番2号

構 造：書院棟・座敷棟 木造平屋建

展示棟 鉄筋コンクリート平屋建

庭園ゾーン

事業内容：日本の伝統的な文化である、礼法の歴史などの紹介と市民や観光客に生活文化の体験の場を提供する。

(2) 指定期間

平成31年4月1日～平成34年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

名 称 北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体

代表者所在地 北九州市小倉北区魚町2丁目6番1号

構成員 北九州まちづくり応援団株式会社（代表）

株式会社朝日広告社

一般社団法人まちはチームだ

岡崎建工株式会社

NPO法人NORTH NINE

構成員の所在地と主な業務内容

①北九州まちづくり応援団株式会社

所在地：北九州市小倉北区魚町2丁目6番1号

主な業務：まちづくりに関する事業の企画・運営管理等

②株式会社朝日広告社

所在地：北九州市小倉北区大手町11番3号

主な業務：メディア広告、イベント等

③一般社団法人まちはチームだ

所在地：北九州市小倉北区京町2-2-19

主な業務：多種多様なコンサルティング等

④岡崎建工株式会社

所在地：北九州市小倉北区下到津5-9-22

主な業務：建物並びに施設の清掃維持管理、造園・土木工事等

⑤NPO法人NORTH NINE

所在地：北九州市小倉北区宇佐町2-10-1

主な業務：まちづくりに関する事業の企画・運営管理等

2 指定の経緯

平成30年	8月28日	募集開始
平成30年	9月10日	募集説明会の開催
平成30年	9月28日	募集締め切り
平成30年10月15日		指定管理者検討会の開催
平成30年11月		指定管理者候補を決定

(1) 応募要件

- ①集客型観光施設の管理・運営及び集客、催事（イベント、企画展等）を行う能力、ノウハウを有する法人、その他の団体。（個人による応募は不可）
- ②本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ③募集説明会に参加していること。（共同事業体で応募する際は、代表団体が募集説明会に参加していること。）
- ④共同事業体を構成する場合は、競争性を確保した上で、本市経済の振興と地元団体の育成を図る観点から、可能な限り地元団体を構成員とするよう努め、最低1団体は地元団体とすること。

(2) 応募状況

説明会参加	13団体
応募件数	2団体

A) 小倉城下町にぎわいづくり共同事業体

【構成員】株式会社オリエンタルコンサルタンツ北九州事務所、第一警

備保障株式会社、株式会社福岡放送、株式会社フーディア
 B) 北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体
 【構成員】北九州まちづくり応援団株式会社、株式会社朝日広告社、一般社団法人まちはチームだ、岡崎建工株式会社、NPO 法人 NORTH NINE

3 選定方法

指定管理者の選定にあたっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された提案書等について検討しました。

市は検討会の検討結果を参考に指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員（順不同）

[学 識 経 験 者]南 博（公立大学法人北九州市立大学地域戦略研究所教授）

[民 間 企 業]金 成子（株式会社アバンティ取締役北九州支社長）

[民 間 企 業]松尾 孝治（元小倉城周辺魅力向上計画検討会構成員）

[財務関係専門家]相浦 圭太（税理士法人T Aパートナーズ代表税理士）

[観光関係専門家]松清 一平（株式会社ホスピタブル代表取締役）

5 選定基準

選定基準	選定のポイント
1 指定管理者としての適性（配点 15 点）	
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針（5 点／15 点）	○市の観光振興策や施設の設置目的や特性等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤（5 点／15 点）	○経営状況が良好であり、長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
(3) 実績や経験など（5 点／15 点）	○同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。 ○施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。 ○複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2 管理運営計画の適確性（配点 85 点）	
【有効性】（40 点／85 点中）	
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み（30 点／40 点）	○施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。 ○施設の利用者の増加や、利便性を高めるための実施可能な提案があるか。 ○施設間の有機的な連携が図られる提案があるか。 ○施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。 ○小倉城周辺のにぎわいづくりにつながる具体的なイベントやおもてなし、体験メニューなどが提案されているか。 ○利用者が施設に特別な親しみを感じ、繰り返し訪問するための具体策が提案されているか。 ○集客目標は適正な範囲で設定されているか。また、目標達成のために効果的な具体策が提案されているか。 ○提案事業又は自主事業が施設の設置目的の達成に効果的であるか。 ○市の政策を支援する業務内容の提案が行われているか。

(2) 利用者の満足向上 (10点/40点)	○利用者の満足が得られるようなサービスの提供や、満足度向上のための具体的な提案がされているか。 ○利用者の要望や意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。 ○利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。 ○利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。
【効率性】(25点/85点中)	
(3) 指定管理業務に係る費用 (15点/25点)	○指定管理業務に係る費用が妥当なものであるか。 ○経費を低減するための実施可能な提案があるか。 ○利用料金の設定が適切であるか。 ○施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支計画の内容が合理的かつ妥当なものであるか。 ○清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われる場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫されているか。
(4) 収入の増加に向けた創意工夫 (10点/25点)	○収入を増加するための実施可能な提案があるか。 ○来訪者の増加につながる催事や企画など、収入増が図られるような具体的な提案がされているか。 ○直接的・間接的な収入の増加につながる提案事業又は自主事業が提案されているか。
【適正性】(20点/85点中)	
(5) 管理運営体制など (10点/20点)	○施設の管理責任者、管理・運営体制が明確に示されているか。 ○施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であるか。 ○施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。 ○職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。 ○地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など (10点/20点)	○施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。 ○利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。 ○日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。 ○防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗 率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている(市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している)
4	80%	優れている(市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している)
3	60%	普通(市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している)
2	40%	多少不十分である(市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい)
1	20%	不十分である(市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい)
0	0%	劣っている(能力がほとんどなく、任せることに不安がある)

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル					検討会 審査結果	得点
			構成員						
			A	B	C	D	E		

小倉城 下町に ぎわい づくり 共同事 業体	1 指定管理者としての適性								
	(1) 施設の管理運営に対する 理念、基本方針	5	3	3	4	3	3	3	3
	(2) 安定的な人的基盤や財政 基盤	5	3	4	4	4	4	4	4
	(3) 実績や経験など	5	3	3	4	4	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 施設の設置目的の達成 に向けた取組み	30	3	3	3	4	3	3	18
	(2) 利用者の満足度	10	3	3	3	3	4	3	6
	【効率性】								
	(3) 指定管理業務に係る 費用	15	3	3	3	3	3	3	9
	(4) 収入増加に向けた創意 工夫	10	4	2	3	3	3	3	6
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制など	10	3	2	3	3	4	3	6
(6) 平等利用、安全対策、危 機管理体制など	10	3	3	4	3	4	3	6	
合 計	100	62	57	65	68	68	—	62	
地元団体に対する優遇措置（3点）									65

北九州 まちづ くりマ ネジメ ントチ ーム共 同事業 体	1 指定管理者としての適性								
	(1) 施設の管理運営に対する 理念、基本方針	5	4	4	4	3	4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政 基盤	5	3	5	4	3	4	4	4
	(3) 実績や経験など	5	4	5	4	4	5	4	4
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 施設の設置目的の達成 に向けた取組み	30	4	4	4	3	4	4	24
	(2) 利用者の満足度	10	4	4	4	3	4	4	8
	【効率性】								
	(3) 指定管理業務に係る 費用	15	3	3	3	3	4	3	9
	(4) 収入増加に向けた創意 工夫	10	3	4	4	3	4	4	8
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制など	10	4	3	3	3	4	3	6
(6) 平等利用、安全対策、危 機管理体制など	10	3	3	3	3	4	3	6	
合 計	100	72	75	73	61	81	—	73	
地元団体に対する優遇措置（5点）									78

(2) 検討会における主な意見

- ・ しろテラスの飲食店運営において、「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」は、かなりイニシャルコストがかかると思う。「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」は、セントラルキッチンを有するテナントを想定して、コストを抑えている。
- ・ 「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」の提案は、実績に基づくリアル感がある。また、市民が誇れる名所としてシビックプライドの醸成をコンセプトとしている点に共感を持てる。
- ・ 「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」の提案は意欲的ではあるが、「小倉城らしさ」、「北九州らしさ」という点が少し物足りない。
- ・ 「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」の方が目玉となる新しいイベントを提案している。「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」は現行の延長で企画をつくっている。
- ・ 「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」の提案は非常にわくわくする内容で興味を持ったが、難しさも感じる。「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」は実績に基づく現実的な提案であり安心だが、もっとチャレンジしてほしい。

(3) 検討会における検討結果

どちらの団体も、特徴のある提案内容だったが、適性、有効性、効率性においては、「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」が優れ、適正性においては双方差がなく、合計得点において、「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」が上回った。「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」も指定管理者として相応しい提案を行っているが、検討会としては、合計得点や提案内容を総合的に勘案し、北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体が指定管理者として相応しいと判断する。市は、検討会における議論を参考に、最終決定を行われたい。

なお、付帯意見として、以下を付すこととした。

- ・ 市外からの観光客や、外国人観光客の更なる増加を図るため、集客力がある新たな大型イベントを検討し実施されたい。
- ・ しろテラスの集客にはしっかり対応いただきたい。
- ・ 提案書記載のスタッフ制服の公募については、指定管理者の選定にかかる北九州市議会の議決後に開始するよう見直されたい。

7 選定結果

市は検討会の検討結果を参考に、北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体を指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・ 小倉城や小倉城庭園の特性や歴史的背景を活かした提案を行っており、集客だけでなく、シビックプライドの醸成にも貢献する内容である。
- ・ 小倉城、小倉城庭園等、市内施設における管理や業務の実績、経験を充分に有しており、集客業務やしろテラスの運営などに関しても堅実な計画内容となっている。
- ・ 施設の設置目的及び市の政策課題等についての理解もあり、しろテラスについては、周辺の案内機能だけでなく、小倉城や小倉城庭園への誘客を行う仕組みづくりを提案している。飲食提供や土産品の開発なども小倉城周辺の魅力向上につながるものと期待できる。

8 提案額

平成31年度	66,000千円
平成32年度	65,000千円
平成33年度	38,000千円

小倉城・小倉城庭園指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	小倉城下町にぎわいづくり共同事業体	北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体
1 指定管理者としての適性	(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針 管理運営の理念：北九州・小倉の贅沢なおもてなし～地域資源を活かした新たな文化の創造～ 管理運営の基本方針：①伝統文化、②食文化、③市民文化、④若者文化、⑤歴史文化 小倉城おもてなしコンセプト：小倉のまちを見守る城 ～北九州・小倉の文化、にぎわいを、過去から現代、そして未来へ継承～ 小倉城庭園おもてなしコンセプト：文化と緑が薫る園 ～文化、自然、そしてマチ、ヒトの移ろいを形に～ 管理運営の理念：北九州・小倉の贅沢なおもてなし ～地域資源を活かした新たな文化の創造～ (2) 安定的な人的基盤や財政基盤 (株)オリエンタルコンサルタンツ：北九州市内は小倉北区と若松区、その他福岡市内に事業所を置き、臨機の人的支援が可能な体制 第一警備保障(株)：戸畑区に本社・支社を置き、豊富な人的リソースを有し、迅速かつ安定した人的支援が可能 (株)福岡放送：北九州市に支社を置き、福岡・佐賀県全域に密着した情報を入手・発信する人材を保有 (株)フーディア：小倉北区に本社を置き、飲食関連に精通したスタッフを保有 (3) 実績や経験など (株)オリエンタルコンサルタンツ：指定重要文化財の古民家を活用した観光振興／年間を通じてレクリエーション展開し過去最高の入園者数を記録 第一警備保障(株)：複合型スポーツ施設にて各種スポーツ教室や地域連携によるスポーツ振興 (株)福岡放送：北九州市・福岡市内を中心に、幅広いターゲット層へ向けた多種多様な展覧会と賑わいを創出したイベントを開催 (株)フーディア：地元の農・畜・漁を使った地産地消カフェを運営し6次産業化も推進 当JV の資格：4 社の強み（知識、実績・経験など）を活かし効果的・効率的な管理運営体制を構築	(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針 【理念】平成28年2月に公表された『小倉城周辺魅力向上事業基本計画』で設定された3つのゾーンのうち、歴史ゾーンにおいては、「小倉城」「小倉城庭園」を中心とした周辺一体の魅力向上によって、国内外からの集客力を高めるとともに、北九州市民のシビックプライドを高めて「地域力」の向上を促進する。そのために、ヒト・モノ・コトを通じて新たな「つながり」をつくり、育まれた郷土愛に根ざすおもてなしの心によって、ますます魅力が増す地域づくりを進めていく。 【基本方針】その理念の実現のために、共同事業体を結成し5つの基本方針を立て運営していく。1) 魅力の最大化と発信力の向上。2) 利用者の満足度向上に資するおもてなし力の強化・改善。3) 北九州市民のシビックプライドの醸成。4) 豊富な経験とネットワークの利活用。5) 徹底した安全・安心の管理運営。 (2) 安定的な人的基盤や財政基盤 「北九州まちづくりマネジメントチーム」は、北九州まちづくり応援団(株)、(株)朝日広告社、(一社)まちはチームだ、岡崎建工(株)、NPO法人NORTH NINEの共同事業体で、まちづくり事業や各種プロモーション、広告宣伝活動、施設管理、公園管理などの専門家で構成された事業集団です。北九州まちづくり応援団(株)のこれまでの「小倉城・庭園」運営管理の経験と実績に加え、インバウンド対応などの環境変化にも対応し、的確な情報発信による集客、施設を含むゾーンのブランディング力を向上させるために、専門的知識・スキルを持った団体と共同で推進していく。 (3) 実績や経験など 北九州まちづくり応援団(株)は、指定管理業務がスタートした平成18年4月から、小倉城／小倉城庭園／水環境館を3期13年に渡り、運営管理してきた。多種イベントを積み上げながら、小倉城の入場者数では、ようやく20万人に迫るところまではきた。 (株)朝日広告社は、これまで北九州市をはじめ、地元団体からの委託を受け、多種多様なプロモーションやブランディングを手がけている。 (一社)まちはチームだは、地域プロジェクトや事業プロデュースを通じ、未来創生に貢献することを目的とし、既に北九州市で多くの実績を上げている。 岡崎建工(株)は、「勝山公園あさの汐風公園」「響灘緑地」「志井ファミリープール」「福岡県営中央公園」などの指定管理を受託し運営を続けており、経験と実績は十分である。 NPO法人NORTH NINEは、様々な文化イベント、スポーツイベント等の地域活性化事業により、北九州市の既存の魅力の発掘と新たな魅力を創造し、それらを北九州市内外に発信している。また、吉武理事長は、オーエーセンター(株)を経営しており、世界遺産のお土産としてネジチョコを製造販売するなど、新たなチャレンジをしている。

2 管理運営計画の的確性	【有効性】に関する取組み	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み 【運営管理方針】:①外国人への対応を充実／②魅力ある新たな施設の使い方を提案／③歴史文化資源である小倉城・小倉城庭園を、よりよい状態で未来へ継承／④公共の場を綺麗に安全に保つ日本の心を示し広める管理／⑤市外からも集客し魅力を発信できるイベントを実施／⑥観光客・市民のどちらもが楽しめる企画を年間を通じて実施／⑦文化を通じた市民の活躍の場をつくり、シビックプライドの醸成に取り組む／⑧マスメディアからSNS・ロコミまで様々な手法で広報／⑨海外向けプロモーションやFIT対策を実施／⑩都心集客に向け、周辺施設と連携 【営業・広報】:①最大の強み！テレビ媒体を利用した広報活動／②インバウンド&若年層客を獲得せよ！SNSツールを積極的に活用／③いつ行ってもオモシロイ！ついチェックしたくなる公式HPの制作と運用／④見やすい！分かりやすい！手にしたくなるチラシ・ポスターの作成と展開／⑤“KOKURA”の魅力を再発見！旅行会社と提携したツアー企画の開発／⑥メディアミックスのチカラ！年間を通じた営業・広報活動の実施 (2) 利用者の満足度 ①日本を代表する伝統文化の名所づくり／②北九州ならではのポップカルチャー・グルメイベントの開催／③未来へ繋げたい日本の良き風習の体験／④北九州・小倉の知られざる魅力の再発見／⑤楽しく学べるタイムスリップ体験／⑥注目集めるホットスポットづくり／⑦小倉、北九州の回遊性を高める広域連携／⑧現代風にアレンジした体験ワークショップ／⑨「ビギナー」から「オタク」まで楽しめる多彩な企画／⑩にぎわいあふれるKOKURA茶屋の運営／⑪ココでしか買えない！ご当地商品の開発・販売／⑫ココもお腹も満たされる飲食メニューの開発・販売	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み 5つの基本方針のもと、施設を取り巻く環境や課題を見つめ、14の基本施策を設定し、複合的な取組みによって施設の魅力を最大化していく。一部内容を下記する。 【周辺一帯の魅力向上】施設各々の魅力向上に加え、地元企業・各種団体や商店街などの中心市街地とより密接な連携を図ることで、周辺一帯の魅力向上を図る。 【しろテラス】観光情報・伝統文化情報の効果的な発信の工夫、外国人にも人気の高い「抹茶」を気軽に楽しめる飲食店の出店（辻利茶舗への運営委託）、PB商品の提供、「小倉土産」を中心に販売するコーナーを設置し、新しい小倉土産の開発など種々の施策を検討していく。さらに手荷物預かり、充電サービス、Wi-Fi環境サービスや訪日旅行者に対するスマホ決済サービス他、利用者の利便性を図る。 【インバウンド集客強化施策】スタートの時点では最も訪日人数が多い韓国人に特化して、韓国パワーブロガーを招聘し、魅力情報の発信による小倉への興味喚起・旅行促進を図る。また、以降は集客見込みの高い国を中心に順次集客施策を実施する。 (2) 利用者の満足度 引き続き、利用者アンケートを実施し、満足度90%以上を目指し、お客様の生の声を積極的に戴けるよう日々努力していく。利用者の意見を反映する仕組みとして、新たにサービス向上会議を定例開催し、関係者で現状を共有するとともに、サービスのクオリティ向上に向けた対策を実施する。利用者からの苦情に対しては、苦情発生時に施設スタッフが迅速な対応ができるように対策マニュアルを作成する。更にガイド人材の研修、そのための研修カリキュラム作成を進める。しろテラスでは、利用者データ収集・分析によるサービス力向上を促進する。 (3) 指定管理料及び収入 【数値目標】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>2019年度</th><th>2020年度</th><th>2021年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入場者数（城／庭園）（人）</td><td>230,000／86,000</td><td>250,000／94,000</td><td>250,000／31,000</td></tr> <tr> <td>管理運営費（千円）</td><td>197,100</td><td>190,600</td><td>154,000</td></tr> <tr> <td>使用料収入（千円）</td><td>127,000</td><td>138,200</td><td>108,100</td></tr> <tr> <td>指定管理料（千円）</td><td>66,000</td><td>65,000</td><td>38,000</td></tr> </tbody> </table> (4) 収入の増加に向けた創意工夫 【収入見込みにおける計画】 北九州まちづくり応援団(株)を中心とした共同事業体のこれまでの経験と実績から算出し、実現性の高い数値と考える。集客のノウハウや創意工夫を最大限発揮することで、収入の確保に努める。 【支出見込みにおける計画】 北九州まちづくり応援団(株)を中心とした共同事業体のこれまでの経験と実績が指標となり、それが積算根拠に結びついている。内製化による費用削減、市内企業に配慮した再委託なども進める。	項目	2019年度	2020年度	2021年度	入場者数（城／庭園）（人）	230,000／86,000	250,000／94,000	250,000／31,000	管理運営費（千円）	197,100	190,600	154,000	使用料収入（千円）	127,000	138,200	108,100	指定管理料（千円）	66,000	65,000	38,000
項目	2019年度	2020年度	2021年度																				
入場者数（城／庭園）（人）	230,000／86,000	250,000／94,000	250,000／31,000																				
管理運営費（千円）	197,100	190,600	154,000																				
使用料収入（千円）	127,000	138,200	108,100																				
指定管理料（千円）	66,000	65,000	38,000																				
	【効率性】に関する取組み	(3) 指定管理料及び収入 豊富な実績に基づき、使用料収入を増やしつつ、コスト縮減と効率化を進め、適正な指定管理料を設定 (4) 収入の増加に向けた創意工夫 小倉城のリニューアルオープンや小倉城庭園空調工事などによる利用者数の変動を踏まえた実現性の高い収支計画。																					

2 管理運営計画の的確性	【適正性】に関する取り組み	(5) 管理運営体制など ○有資格者・経験者、スキル習得者による管理運営で指定管理開始時より、安全・安心と快適性を確保／○施設の管理運営を幅広く行える人材の育成を通じたスタッフの満足と管理運営の質的向上の実現／○既に協働関係にある地域住民・団体等との連携・協働を加速し、当施設と小倉都心地区の魅力・にぎわいを向上	(5) 管理運営体制など (一社) まちはチームだ 朝日広告社 北九州まちづくり 応援団 (株) 岡崎建工(株) NPO 法人 NORTHNINE 統括部長 統括部門 統括課長 小倉城 城長 小倉城庭園 館長 統括課長 経理 総務 しろテラス ガイド、売店、 全体管理 受付案内 担当 館長代理 給与厚生 担当 テナント (辻利) 行事広報 担当 学芸員 学芸員補 駐車場 行事広報 担当 事務担当
		(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など 個人情報：個人情報保護、文書管理、情報公開等、責任者を決めて確実に実施。関連法令や、北九州市条例、ガイドラインを踏まえた情報管理を実行／平等利用：「公の施設」の指定管理者として、平等・公平・公正な管理運営を実行／安全対策：利用者への最大のサービスの一環として、事故防止と速やかな対応によるリスクマネジメントの実施／危機管理：機械警備に加えた人的警備により安全を確保するとともに、日常訓練、強力なバックアップ体制により災害への万全の備えを整備	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など 以下のしくみ構築と確実な実施を進める。 ・プライバシーポリシー（個人情報保護方針）の制定。 ・公共性（公益性）の確保。 ・予防保全の徹底。 ・事故災害発生時の迅速な対応。

【提案額】

平成31年度	66,709千円	66,000千円
平成32年度	65,859千円	65,000千円
平成33年度	39,878千円	38,000千円

北九州市小倉城・小倉城庭園指定管理者検討会 会議録

1 開催日時 平成30年10月15日（月）13：30～17：00

2 場 所 北九州市役所本庁舎 特別会議室A
(北九州市小倉北区城内1-1 北九州市役所5階)

3 出席者 (検討会構成員) 南構成員(座長)、金構成員、松尾構成員、
相浦構成員、松清構成員
(事務局) 産業経済局観光にぎわい部長
観光にぎわい部集客交流担当課長
観光課 観光施設係長及び職員

4 会議内容

- 事務局より当日のスケジュール、審査にあたっての留意点等を説明
- 構成員の互選により座長を選出
- 応募団体(小倉城下町にぎわいづくり共同事業体)による提案概要説明
- 応募団体(小倉城下町にぎわいづくり共同事業体)への構成員によるヒアリング

(構成員) イベント年間予定表において、「歌舞伎」、「薪能」、「忍者体験イベント」、「流鏝馬」、「落語」等、城と庭園について多彩なメニューを提案しているが、小倉城の歴史的な背景などを踏まえた「小倉らしさ」をどのように発信していくのか。

(応募団体) 細川、小笠原のお殿様が治めていた小倉の歴史や、リニューアルされる展示内容を含め、個別のイベントや企画展を開催することで「小倉城らしさ」を発信したいと思う。今回提案した「歌舞伎」や「流鏝馬」も、小倉の目玉にしていきたいと思う。

(構成員) しろテラスのオープンも大きな目玉になると思う。飲食を中心に利用することだが、多くの方が集まることを考えると、インフォメーション機能が重要になると思う。この点が不明確なので、具体的な考えを教えてほしい。

(応募団体) しろテラスには、市内全域を案内できる観光コーナーを作る予定である。また、飲食・物販スペースについても、エリアを区分して活用したい。

(構成員) 「SNS については、今ある様々なツールを使う」ということだが、どのように使うのか。イベントの度に発信していくのか。

(応募団体) SNS に関しては様々な使い方がある。SNS の中に広告が出る場合や、YouTube で動画を開いた時に PR の動画を流す、GPS を使ってジオターゲットという小倉駅周辺にいる人たちに対して広告を流すなど、内容によって使い分ける。

海外に向けては特に SNS が有効であると思うので、強いコンテンツとして利用していきたい。

(構 成 員) イベントの記載内容の中に「検討します」という言葉があるが、これは「やります」ということでよいか。

(応募団体) 基本的には行う方向である。ただし、歌舞伎等大きなイベントは、我々単独で開催するのではなく、周辺事業者と実行委員会形式で実施したいと思っている。これから相談することでもあり検討とした。市と協議して、検討・調整した上で行うということである。

(構 成 員) 着物の試着とあるが、イベントの時だけではなく、随時、楽しめる方がいいと思う。7 月と 10 月となっているが、どなたが来ても体験できるようにはできないか。

(応募団体) 今回イベントの形で提案しているが、いつ来ても気軽に羽織ってインスタグラム用に撮ることはできるようにしたい。

(構 成 員) 海外向けのエージェントセールスについて言及があったが、具体的にどう行うかが分からない。たとえば、韓国ではエージェントを使わない個人旅行者が 7 割を超えているが、そういった方々に対して、どのような戦略でプロモーションしていくのか。また、セールスしていくのか。

(応募団体) 海外向けセールスについては、北九州市観光課、北九州観光コンベンション協会と、エージェントセールスを行っている。特にアジア系、韓国、中国、台湾、タイに対しては、福岡を中心としたランドオペレーターに営業をかけていきたい。実際に現地にセールスに赴くことも考えている。また、スペースワールドにいた営業担当も共同事業体にいるので、コネクションはかなりある。ご指摘のあった韓国の FIT については、SNS で個人向けに訴求するような、たとえばインフルエンサーを使うなどして、小倉城や小倉城庭園を発信して営業をかけていきたいと思う。

(構 成 員) 城でプロモーションする所は他にも相当数あると思うが、その差別化についてポイントが知りたい。どこを一番アピールしてセールスしようと考えているのか。

(応募団体) 日本固有の「薪能」や「流鏑馬」のような伝統文化を発信して、小倉城に来てもらえる取組みを考えている。

(構 成 員) 周辺の商業施設等との連携に改善の余地があることから、解決策を記述している。抽象的な部分がある。実際にどのようなことをお考えなのか。現状との差別化も含めて説明して欲しい。

(応募団体) 現状については、松本清張記念館も含めた 3 館の共通利用券が発行されており、商店街の一部と連携していることは知っている。ただ、もう少し広い範

圏で連携することを目的に、たとえば、小倉駅新幹線口の「あるある city」等と連携したスタンプラリー、スマホのアプリを使った施設紹介、近隣の店の紹介、クーポン券での誘導等を考えている。

(構 成 員) 隣のリバーウォークや JR 駅との連携については、今の時点で考えはあるか。

(応募団体) 事業者と相談させていただいてからになるが、たとえば、リバーウォークだと、いろんな角度から小倉城が見えることは面白いと思っている。写真を撮って、「これはどこからでしょう」といったクイズなどを行って、両方の施設に行ってもらえるような連携を行いたいと考えている。

(構 成 員) 小倉城の個人入場者が大人が 130,000 人、中高が 6,000 人、小学生が 16,000 人となっているが、小中高がとても低いと思う。「対象は大人」という判断なのか、今の入場者の推移がそういう流れなので、今後もそういう増加率だという判断なのか。

(応募団体) 外国人観光客が増えているので、大人が主たるターゲットになると判断している。ただし、ご指摘の通り、小中学生が少ないのは問題だと考えているので、チラシ等を学校に送り、授業の一環で施設を利用してもらうようなセールスは当然行う。ただし、現状の収支は、現状に見合った形がいいと考えた。

(構 成 員) しろテラスの事業実施年数を 3 年として、初期投資をいくらかけるのか。また、3 年で回収しないと赤字になると思うが、具体的な収支計画をどのようにお考えか。

(応募団体) 3 年だと新品を購入すると大変厳しいので、我々が保有している什器類を転用しようと思っている。ただし、実際の場所に合うかどうかもあるので、いくつか自社で持っているものを変容した形でやりたいと思っている。それで十分できると判断して、今回、自主事業については積算している。

(構 成 員) どれくらいかかりそうか。

(応募団体) 経費としては 500 万円くらい積んでいる。その中でやっていこうと思っている。自社で保有している什器については経費に入れていないので、あとは内装にどれくらいかかるか等を今後詰めていこうと考えている。

(構 成 員) しろテラスについて、週末祝前日は酒場にする提案しているが、その主なターゲットをどこに置いているのか。一人あたりの消費単価をどのくらいで考えているのか。また、しろテラスに酒場を設置した時の喫煙所の問題を教えてほしい。

(応募団体) ターゲットは、週末なのでビジネスマンやインバウンドの観光客である。特に、小倉の夜の町を城や庭園の方に引っ張りたいという意図があり、小倉の夜を楽しめる場所をイメージしている。喫煙所については、石垣側の屋外に設けたいと考えている。敷地外からはあまり目立たないし、しろテラスの中からすぐに行ける。夜についてはお酒も出したいと思っているので、消費

単価は1人あたり3,000～4,000円を考えている。

(構 成 員) 日中に開催する有料イベントについて、強気な価格設定を行っている印象を持つが、価格設定の考え方を知りたい。この価格を達成できなかった時、収支にどのような影響があるか。

(応募団体) 単価については、いろんなイベントの実績を頭にいれながら設定をしている。我々の採算に合わせなければならないので、今回は高めに設定しているが、指定管理者として選んでもらった後は、どれだけ下げられるかを検討させていただく。

(構 成 員) これは提案段階の目安で、この価格にしなくても運営は健全に行うことができるという理解でよい。

(応募団体) イベントは単独で収支を取る形で考えており、全体の事業に影響が出る試算はしていない。どこかに赤字が出たからといって全体が回らなくなることはないし、そういう運営をしていこうと思っている。

(構 成 員) 小倉城庭園で、池の水質浄化に着目いただいている点がすごくいいと思う。提案のホテイアオイは色々な問題があると思うが、使用して問題がないか教えていただきたい。

(応募団体) ホテイアオイには浄化作用はあるが、増えすぎる等の問題があるのは承知している。増えすぎないように日常的にコントロールを行う。庭園なので、見栄えを考えると、浄化の機械をいくつも置くとか噴水みたいな装置を設置することは違うと思っている。少しでも浄化の手助けになればいいと考え、ホテイアオイを提案させていただいた。ただし、炭を使った浄化等もあるので、1年目は試行し、どれが一番効果があり、美観的にも問題ないのかという判断をしたのち、2年目以降、確定版で進めていきたいと思う。

(構 成 員) ホテイアオイは南米原産で外来種であり、よくないと言うつもりはないが、小倉城庭園にそれがマッチするかどうかに関しては気になる。適切な管理がされていれば景観上も問題はないという認識でよい。

(応募団体) いわゆる京都にあるような日本庭園ではなく、あのような雰囲気味わってもらうことが非常に大事だと思っている。一般の方は、外来種とは分らないと思うので、植物の方が機械よりはいいと思い提案させていただいた。

(構 成 員) 「外国人の喜ぶような日本のおもてなし」ということであるが、「小倉らしさ」というところで、どのように外国の方におもてなしするのか、考えを伺う。

(応募団体) 小倉織のような地場のものを使って飾りつけを行う等、地域性を出せばいいと思っている。

(構 成 員) 小倉藩でいうと、上野焼等いろいろあるので、今後取り組んでいくということで良いか。

(応募団体) まず知名度のあるものから出して、だんだんマニアックにしていくというよ

うな形で深めていきたい。

- 構成員は、応募団体（小倉城下町にぎわいづくり共同事業体）の提案概要説明と質疑応答を受けて、各自評価レベルを記入。
- 応募団体（北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体）による提案概要説明。
- 応募団体（北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体）への構成員によるヒアリング。

（構成員）文化的側面のより深い掘り下げで小倉城の幕末期の歴史に着目していくというのは非常に面白いと思う。一般に幕末期の小倉城はマイナスイメージが強いと思うが、どのような形で展開するのか、考え方を教えてほしい。

（応募団体）今の話は、長州から攻められた際の話だと思うが、多少誤解もあるので、歴史認識に立って整理をして伝えていくことを検討している。

（構成員）地域の歴史についてのワークショップで講師に郷土史家を提案しているが、学術的な裏付けで言えば、いのちのたび博物館の学芸員なども様々な検討をされている。いくつか資料も残っているので、多角的な観点から学術的な間違いなどがなく、十分配慮する方がいい。

（応募団体）学芸員との交流もある。当然いのちのたび博物館と連携する。

（構成員）今回の魅力向上事業の整備では、一番の目玉はしろテラスでだと思う。エリア自体で広く北九州市を発信していく上で重要な拠点になると考えている。しろテラスでの観光情報の発信は北九州全般というよりも、小倉藩、小倉城の歴史を深く知る機会を是非作っていただきたいと考えている。この点について、もう少し具体的に教えていただきたい。

（応募団体）小倉城の歴史を知らないと、来た方への案内もできない。長崎街道小倉城下町の会などの色々な情報も集めているが、それをどのような形で訪日客や子供たちなどの色々な層に伝えていくかということ、100インチ級のモニターがあるとのことなので、そういうツールもうまく使いながら伝えていこうと考えている。

また、庭園の敷居が高いとも言われているので、庭園の情報をもっと柔らかく伝えて、入りやすい形で整えていきたいと思っている。

（構成員）飲食店として辻利茶舗が出店することについては、具体的にどの辺りまで決定しているのか

（応募団体）指定管理者の決定前なので確定事項ではないが、元々あの周辺で桜のシーズンに喫茶を出すなど、色々な取組みを行っている。その延長で決して悪い場所ではないのでやってみたいという積極的な意思表示があった。京町店や魚

町店もあるが、やっていることをそのままやるのではなく、城下町、お城の下だからこういうものが欲しいといった要求があると思うので、細かい点についてはそのあたりを整理して調整しながら決めていきたい。

(構成員) 今回、指定管理期間が 3 年というショーツパンだが、出店費用は回収できるのか、たとえば指定管理者が 3 年後変わった場合に店を撤収しないといけないというリスクがあると思うがどうか。

(応募団体) 倉庫に色々な資材を持っている。調理や冷蔵やテーブルとか椅子とか全部お持ちなので、大きな設備費はかからないだろうと判断している。

(構成員) 調理して持って行って売ることができればそれが一番いいと思う。あの場で調理するとなると調理器具のイニシャルコストが大きいと思う。

(応募団体) 京町店の 2 階にスイーツの工場がある。そこで調理したものを魚町店に持って行っているし、コレットの地下にも持って行っている。距離的には問題ないので、しろテラスの中で全部調理するというのではなくて、そのネットワークを使うことも考えている。

(構成員) 調理ではなく、ひと手間加えて販売するような感覚で考えたら良いか。

(応募団体) 多分それに近いと思う。

(構成員) 商売云々もさることながら、オペレーションを結構スムーズにやらないと売れないだろうと思ったのだが、キャッシュレスの対策は具体的にどのようなことを行うのか。

(応募団体) 今小倉城庭園で、アリペイとプリンを導入し、みずほ銀行の実証実験に加わっている。その延長線上でしろテラスもキャッシュレス化を目指しているし、今辻利茶舗の方でもそういう方向は取り組んでいるので、そこは問題ないと思っている。

(構成員) それは動向が変われば他のものを入れることも考えるということで良いか。

(応募団体) そこは柔軟に考えている。

(構成員) 人材の育成は非常に重要だと思う。観光案内所の人材を育成すると言及しているが、ハードルは高いと思う。収支計画には手間とかコストとかが盛り込まれているのか。あるいはある程度希望的観測か。

(応募団体) 小倉城天守閣が 8 月から来年の 3 月まで休館している。そこで中心となるスタッフに色んな研修を行っている。小倉城の歴史もそうだが、周りの施設を理解するため、見学や人との繋がりを持つことを行っている。そういった研修を行いながら、トップランナーとなる人材を作り上げ、そこから広げていく考えである。ただインバウンドの対応については、費用がある程度かかると思っている。教育するのは時間がかかるし、一気に言葉が喋れるようにはならないので、能力のある人を採用していくことを考えている。

(構成員) 小倉の歴史にこだわっていくという基本的なスタンスはすごくいいと思って

いるが、外国人観光客は端的に申し上げると歴史にはあまり関心がない。そのような中で、どこまでをこだわろうかというニュアンスが知りたい。せめてここぐらいは持って帰ってもらいたいという、その思いを教えてください。

(応募団体) 今回の天守閣リニューアルで細川家のお茶や、武蔵と小次郎など、各階でいろんなメニューが入ってくるので連動性という面で課題がでてくると思う。いきなり天守閣に入っても分からない方に対して、しろテラスで情報をうまく伝えて分かりやすくしたいと考えている。

(構 成 員) 施設の設置目的の達成に向けた取組みは、事前にヒアリングやアンケートを行ってそこから抽出した、望ましい取組みになっているか。たとえば、「案内人と行く、高くても価値のある夜の食ツアー」は金額が 2 万円となっているが、これはそれなりにニーズのある企画なのか。

(応募団体) 今回提案をさせていただく中で、アンケート調査や市場調査を行った。特に外国人、20~30 代の方は、小倉城に何となく来た、日帰りの旅行者が多い。夜の食事を含め、泊まるという感覚があまりない。街全体で考えた時に、最終ゴールとしての宿泊を考えると、夜の飲食は切り離せないなのでそのニーズをくみ取った上で提案させていただいた。

(構 成 員) 2 万円と 4 万円は食事代なのか。宿泊も入っているのか

(応募団体) 基本的には食事のみで考えている。

(構 成 員) 沢山ニーズがあるのか。

(応募団体) 分母としてはまだまだこれからだと思っているが、ニーズとしてこれから広がりを見せるのではないかと考え、提案した。

(構 成 員) バルウォークはイベントである。小倉城周辺に来た時に、イベント開催日と合わないとならないのが課題だと思うが、このバルウォークはどういうスパンで開催するのか。

(応募団体) 基本的には年間 2 回実施。イメージは福岡市で行っている西日本最大のバルウォークである。付加価値として、近い将来的にはワークショップも絡めながら、1 つのフェスのような考え方をしている。市民を巻き込んだ形で、草の根活動になると思うが、やっていきたいと思っている。

(構 成 員) 新しいものとして、小倉城とソードアートオンラインとのコラボレーションがあるが、期間はどのくらいで考えているのか

(応募団体) 4 月 1 日にスタートして、GW明けまでをイメージしている。

(構 成 員) 1 回のイベントか。

(応募団体) 歴史的背景や観光資源の刷り込みという点で、アニメのコンテンツを利用して小倉城を訴求しようと考えている。まずメリットとしてインバウンド。全世界の興行収入が 43 億、海外でも 18 億ということで、海外に認知されている。

また、アニメの主人公が二刀流で、宮本武蔵と通ずることもあり、企画した。具体的にはオリジナルグッズの開発や商店街との飲食のコラボなどを考えている。単発の打ち上げイベントというよりも1か月半かけて街全体を回遊できるような施策として企画した。

(構成員) そのアニメのイベント費用はどうなっているのか。

(応募団体) アニメコンテンツに一番求められているのはグッズ。ここでしか買えないグッズというのは重要になっている。基本的は来場者の10パーセントの方が客単価千円で購入すれば、事業として成立すると考えている。数十万円の不足分は収支計画の広告宣伝費に落とし込んでいる。

(構成員) 「新・北九州みやげ商品開発」については、中心的な役割を NORTH NINE が果たされて、地元の菓子製造会社等とコラボすることだが、これはオーエーセンター(株)ありきの話なのか。それとも他の地場の菓子製造会社も参入する余地があるのか。

(応募団体) オーエーセンターではネジチョコが最大の売りなので、それから派生した形で目玉商品をつくることを考えている。その他に地場企業と大学とのコラボの要望があり、これを立ち上げればいろんな情報も入ってきて活性化できると思っている。

(構成員) ゾーンのブランディングは素晴らしいと思うが、具体的にどうブランディングしていくのかが分かりにくい。

(応募団体) 各施設の目的が違うことが、非常に苦戦している部分である。ただ、相互の場所が近いことが最大の強みと考えた。現在実行委員会等の会議体もないということなので、まず足並みを揃える形で、実行委員会を立ち上げることを考えている。それに伴って各施設が、お互いに情報発信であるとかワークショップをやっていくことで相互の関係性を持ってエリアを作っていこうと考えている。

それを徐々に浸透させながら3年間かけて具体的なワークショップなどを行う。色々な講師を招き、たとえば小倉城の講師に文学館で講師をしていただくとか、まず仕組み作りが必要と考えている。そういう組織づくりをしたいと考えている。

(構成員) オプション案として新規大型イベントとあるが、このオプションの意味は。

(応募団体) エリア全体の連携を作ることによって、関係性ができ上がった暁には、事業の完成形としてこのエリア全体で大きな一つのイベントをしたいという考えである。

(構成員) 大きなイベントとはどんなイメージか。

(応募団体) 現状、小倉城の前の広場でいろんなことを行っているが、そこで終わってしまう。これから勝山公園を運営管理している岡崎建工(株)などうまく連動して、大きなエリアで活動することを将来的な狙いも含めてイメージしている。

(構 成 員) 3年目の小倉城の入場者数が、25万人から25万人と増減がないのは何故か。
(応募団体) 3年目は小倉城庭園が8月で閉まる。小倉城と庭園の連動企画をかなり入れるようにしているため、立ち上げた後、3年目に休館となると、なかなか結果が出にくいと考え、そのマイナス面もあるので、3年目も横ばいと判断した。

(構 成 員) 小倉城の個人利用者が大人10万人、小学生5万人、中高生2万5千人とあって、小中高生の利用が少ないが、家族利用をイメージして試算していないのか。

(応募団体) 現状がそういう数字だったのでそれに沿っている。当然これからの戦略は、どこを広げていくか考えながら進めていく。

○ 構成員は、応募団体（北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体）の提案概要のプレゼンテーションと質疑応答を受けて、各自評価レベルを記入。

○ 構成員は、応募2団体の評価レベルを発表し、構成員全員で意見交換。

(構 成 員) 財務的な観点で大きな差異はなかったが、しろテラスの飲食店は気になった。「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」は、自分で調理を行うため、かなりイニシャルコストがかかると思う。一方、「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」は外部業者に委託して家賃収入を得る。セントラルキッチンもあるという話なので、そのあたりは違いがある。両方とも長く指定管理をやっている会社が入っているが、小倉をテーマに、小倉城のにぎわいという観点では、「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」の方が、コンテンツがいいものが多かった。おみやげ研究所などは面白いと思った。

(構 成 員) それぞれのプレゼンテーションを聞いて、「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」の方に、実績に基づく話のリアリティを強く感じた。出来ないことを「出来ない」とはっきり述べていた。希望的観測がここまでないということは、結構現実的に捉えられており、そのリアル感は評価に値する。また、コンセプトのシビックプライドの醸成にすごく共感できる。他の地域の方や外国人を集客するときに、一番大事なことは、市民が誇れる名所にすること。それを謳ったコンセプトは実はあまり聞いたことがないのですごくいいと思った。「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」のような企画は結構あるが、「地元らしさ」がなくてうまく行かない例は幾度となく見てきた。セールスについての質疑応答では、セールスの手段や手法を答えていたが、何を売るのかについて明確な答えがなかった。そこに差をつけた。

(構 成 員) 「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」の意欲的な提案は好意的に受け止め

ている。だが、小倉城らしさへの認識が少し物足りないことや、イベントは単発ものが並んでいる印象が強いこと、それから他の先生方からも指摘があったが、しろテラスの活用が十分に見通せないあたりを課題と感じた。「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」の提案は、よく練られていて、実現性が高いと感じた。特に小倉城らしさ、北九州らしさという点に配慮されている企画が加点の対象となった。

(構 成 員) 私は逆にとらえていて、「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」の方が心動かされる部分が多かった。「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」は、地元小倉の熱い思いを持っている方たちが、現在管理を行っている実状もよく分かっていて、今の延長で企画を作っているが、もう少しわくわくする目玉企画が欲しいと思った。イベントでなくてもいいが、小倉城にいつ行っても、何かやっているという状況が欲しい。そこがよく分からないと感じた。SNSによる拡散や、一生懸命さや熱意は伝わるが、実際の具体的なイベントには心が動かない。「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」の方は、実際の実施には懸念する部分もあると思うが、あくまで行う前提で、私はこちらを高く評価した。

(構 成 員) 「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」の方は、しろテラスに関して、飲食店の印象が強く、本来あるべき方向と違うのではないかと思った。イベントに関しては、非常にわくわくする内容で興味を持ったが、私も色々なイベントに関わっていて、人を集めてにぎわいをつくることの難しさを知っているもので、そのあたりを考えると、やってみるとうまく行かず、軌道修正せざるを得ないのではないかと感じた。「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」に関しては、今までの実績があり、安心して話を聞いた部分があるが、現実を知っているがためにチャレンジがないというか、わくわく感がないというか、もっと攻めて欲しかったなと思う。点数の差はついたが、実績をとるか、わくわく感をとるかという中で、「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」の方がより現実的な形で管理できると思い評価した。

(構 成 員) 「小倉城下町にぎわいづくり共同事業体」の方が目を引くイベントを提案している。

(構 成 員) 確かに現状をより良くするために新たな取り組みを行い、名物をつくっていくという点は評価できる。ただそれが、歌舞伎や薪能とか、あるいは現代的なものでは怪談だとかボディービルダーによるイベントであるとか、もちろん小倉らしさ北九州らしさにとらわれたら新しいものはできないだろうが、その中でも、小倉城や小倉城庭園にマッチすることは難しいと感じた。このエリアの歴史的・文化的な特徴にプラスにはなりづらいと思う。

(構 成 員) 「これは無理だろうな」というのが単刀直入の感想。どこかにあるものを、パッケージにして持ってきている印象で、本当にここのことを考えて、一から立ち上げているように見えない。

(構 成 員) 一つ一つのイベントは魅力的と思うがどうしても興行としてとらえていて、どっかのものをこっちに持ってきているように感じる。そこに、北九州市だったり、市民だったり、歴史だったりが存在しているかが見えにくい。そこにもう少し厚みや仕掛けがあれば、評価も変わったのではないかと思う。

(構 成 員) 歌舞伎と小倉の関連は少ないかもしれないが、実施して、継続すれば、名物になっていくと思う。きちんと実現することは、難しいという評価か。

(構 成 員) 大阪城で吉本興業が似たようなことを行うので、正直、比較してしまう。

(構 成 員) 歌舞伎は、他県でも沢山行われている。また、小倉らしさにも、そこまでこだわらなくていいと思う。北九州らしさや、北九州の歴史にインバウンドがどれほど関心を持っているか。正直、城を見に来ているだけの人が多い。

(構 成 員) そういう意味では、この提案は、インバウンド向けにコンスタントに小規模なイベントを回数多く行うというものでもない。一人 8,000 円の料金のものを単発で行う提案である。期待されているものとは違うと思う。年に 1 回、おそらく有名なストーリーのものを行うもので、それがインバウンドに魅力的かどうかは疑問。

(構 成 員) 問題は「北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体」の方ではないか。もっと冒険して欲しい。

(構 成 員) それは思う。

(構 成 員) すごく思う。今の延長で提案している。熱意があり、面白いイベントや、提案からの広がりも期待はできるが、もっと外からの視点で企画を行うべき。市外からも小倉に来るように、もっとフックとなるものがほしい。何か語れるものがほしい。北九州は小さなイベントが多い。もっと広く北九州を知ってもらうためには、大きなイベントが欲しい。年に 1 回でも、毎年行ってブラッシュアップしていく。それが小倉らしさであることをみんなに周知していく。意見としてそれは要望したい。

(構 成 員) 小倉藩は北九州市だけではない。近隣の市町村には小倉藩に関するものが、

上野焼を含めて色々ある。それらをうまく使ってほしい。指定管理者であるからこそ、行政でないからこそできることがあると思う。長州と下関をうまく活用することもできるだろう。新しいチャレンジは小倉城を通じてできると思う。そうすることが、集客にも、シビックプライドの醸成にもつながる。その枠を超えていないのが残念であり、もったいないと感じる。

- 構成員は審査項目ごとの議論を踏まえ、各自評価レベルを再考し記入。
- 各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各審査項目の評価レベルを、
 - 1 指定管理者としての適性のうち、
 - (1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針について
小倉城下町にぎわいづくり共同事業体は、3
北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体は、4
 - (2) 安定的な人的基盤や財政基盤について
小倉城下町にぎわいづくり共同事業体は、4
北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体は、4
 - (3) 実績や経験などについて
小倉城下町にぎわいづくり共同事業体は、4
北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体は、4
 - 2 管理運営計画の適確性に関する有効性のうち、
 - (1) 施設の設置目的の達成に向けた取組みについて
小倉城下町にぎわいづくり共同事業体は、3
北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体は、4
 - (2) 利用者の満足度について
小倉城下町にぎわいづくり共同事業体は、3
北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体は、4
 - 効率性のうち、
 - (3) 指定管理業務に係る費用について
小倉城下町にぎわいづくり共同事業体は、3
北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体は、3
 - (4) 収入増加に向けた創意工夫について
小倉城下町にぎわいづくり共同事業体は、3
北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体は、4
 - 適正性のうち、
 - (5) 管理運営体制などについて
小倉城下町にぎわいづくり共同事業体は、3

北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体は、3
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制などについて
小倉城下町にぎわいづくり共同事業体は、3
北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体は、3
が妥当であると決定した。

- 事務局は地元団体に対する優遇措置を反映させたいなどの合計得点を発表。

小倉城下町にぎわいづくり共同事業体は、65点
北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体は、78点

- 検討会としての検討結果（総合的な所見）について

どちらの団体も、特徴のある提案内容だったが、適性、有効性、効率性においては、北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体が優れ、適正性においては双方差がなく、合計得点において、北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体が上回った。小倉城下町にぎわいづくり共同事業体も指定管理者として相応しい提案を行っているが、検討会としては、合計得点や提案内容を総合的に勘案し、北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体が指定管理者として相応しいと判断する。市は、検討会における議論を参考に、最終決定を行われたい。

- また、付帯意見として、以下を付すこととした。

市外からの観光客や、外国人観光客の更なる増加を図るため、集客力がある新たな大型イベントを検討し実施されたい。また、しろテラスの集客にはしっかり対応いただきたい。なお、提案書記載のスタッフ制服の公募については、指定管理者の選定にかかる北九州市議会の議決後に開始するよう見直されたい。

- 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第 244 条の 2 第 6 項の規定により議会の議決を経る必要があり、平成 30 年 12 月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

- ① 名 称：北九州国際展示場（通称：西日本総合展示場新館）

所在地：北九州市小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号

施設概要：展示場棟 31,280 m²

大展示場、会議室、主催者室、事務室、地下駐車場等
流通センター棟 16,190 m²

中展示場、会議室、ホール、主催者室、地下駐車場等

事業内容：展示会、見本市の開催の場を提供することにより、産業及び貿易の振興並びに国際交流の推進を図る。

- ② 名 称：北九州国際会議場

所在地：北九州市小倉北区浅野三丁目 9 番 30 号

施設概要：延床面積 8,997 m²

メインホール、イベントホール、会議室、事務室等

事業内容：国際会議等の開催の場を提供することにより、国際化の推進及び市民文化の向上を図る。

(2) 指定期間

平成 31 年 4 月 1 日～平成 36 年 3 月 31 日

(3) 指定管理者候補の概要

名 称：公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

所在地：北九州市小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号

主な業務内容：

- ・内外の工業製品等の展示会、見本市等の開催、誘致及び支援
- ・各種会議、大会等コンベンションの誘致及び支援
- ・観光客の誘致及び滞在化促進
- ・各種展示会、コンベンション及び観光等に関する広報及び宣伝
- ・各種コンベンション及び観光の事業の用に供する施設の管理・運営等

2 指定の経緯

平成30年 8月 3日 第1回指定管理者検討会の開催（条件付き公募方式採用の妥当性検証）
平成30年 9月 3日 申請受付開始
平成30年 9月28日 申請締め切り
平成30年10月12日 第2回指定管理者検討会の開催（提案書等審査）
平成30年11月 指定管理者候補を決定

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、条件付き公募方式採用の妥当性及び申請者から提案された事業計画書等について検討を行いました。市は、検討会の検討結果を参考に条件付き公募方式の採用を妥当と判断し、指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- ・[業界関係者] 大谷 友男（公益財団法人九州経済調査協会 調査研究部 次長）
 - ・[市民] 大原 佐栄子（株式会社サンマーク 北九州支社長）
 - ・[財務専門家] 齊藤 久美（株式会社SAKU 代表取締役）
 - ・[学識経験者] 南 博（公立大学法人北九州市立大学 地域戦略研究所 教授）
- ※五十音順

5 条件付き公募方式採用について

（1）条件付き公募とする理由

管理運営を任せる事業者が特定される施設であるかという視点（①施設の設置経緯や高度な公益性、業務内容等から、特定の団体と密接に関連している施設）で検討した結果、公益財団法人北九州観光コンベンション協会の指定管理者の選定に条件付き公募方式を導入することとしました。

資料1「条件付き公募とする理由」のとおり

（2）条件付き公募方式採用の妥当性検証

	構成員			
	A	B	C	D
妥当性	有	有	有	有

（3）検討会における主な意見

- ・公益性の極めて高い取組みを地域の諸団体と連携して実施し、MICE誘致の成果を上げており、利用者からの高い満足度を得ていることから、今後も継続的な管理運営を行うことが望ましい。

- ・施設利用者との人脈やこれまでの実績など、一朝一夕には構築できるものではなく、当該団体の財産や強みでもある。
- ・国際会議開催の実績や3施設運営のスケールメリットなどからも、当該団体が管理運営を行うことが妥当である。
- ・これまでの実績や市の政策との親和性を考えると妥当ではあるが、前もって行政が募集対象を限定することには慎重であるべきと考える。

6 選定基準

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1 指定管理者としての適性	
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	① 応募団体が、市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	① 長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
(3) 実績や経験など	① 応募団体が同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。 ② 応募団体が施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。 ③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2 管理運営計画の適確性	
【有効性】	
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	① 施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られる提案があるか。 ④ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。
(2) 利用者の満足度	① 利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。 ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。 ③ 利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。 ④ 利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。 ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】	
(3) 指定管理料及び収入	① 指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。 ② 収入が最大限確保される提案であるか。 ③ 完全利用料金制の場合、市に対して収益の一部を納付する提案があるか。

(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	
①	収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。
②	経費の配分は適切であるか。
③	積算根拠は明確であるか。
④	再委託が適切な水準で行われているか。
【適正性】	
(5) 管理運営体制など	
①	施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
②	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
③	施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
④	職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
⑤	地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	
①	施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。
②	利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
③	利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われるよう配慮されているか。
④	日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
⑤	防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分に考えられているか。

7 審査結果

(1) 適 否

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	構成員			
		A	B	C	D
(公財) 北九州観光 コンベンシ ョン協会	1 指定管理者としての適性				
	(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	適	適	適	適
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤				
	(3) 実績や経験など				
	2 管理運営計画の適確性				
	【有効性】				
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み	適	適	適	適
	(2) 利用者の満足度				
	【効率性】				
	(3) 指定管理料及び収入	適	適	適	適
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性				
	【適正性】				
	(5) 管理運営体制など	適	適	適	適
	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など				

(2) 検討会における主な意見

- ・総合的によく練られた提案であり、着実な遂行が期待できる体制等も有しており、指定管理者として適格であると考える。
- ・これまでの実績を踏まえ、管理運営体制及び計画は妥当と評価する。九州内に新たに新設されるMICE施設があるなかで、現状に満足せず、更に魅力あるコンベンション誘致に期待する。
- ・長年の経験と近年の目標達成の高さから見ても適正は有りと考える。今後も周辺地域との連携を強化して、経済効果が上がるよう期待する。
- ・運営実績や利用者の評価の高さ、市の政策ともリンクした形で運営計画がされており適正と考える。引き続き、利用者満足度の向上や利用促進に努めていただくことに期待する。なお、小倉駅周辺のにぎわいづくりに関して、観光協会との合併による効果を活かして、来場者のニーズも拾いながら施設運営を行っていただきたい。

8 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、公益財団法人北九州観光コンベンション協会を指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・施設の管理運営理念や基本方針、それを実現するための取組みを明確に策定している。
- ・安定した財政基盤のもと、施設を適正に管理していくために必要な資格や経験を有する、多様な人材を確保している。
- ・これまでの管理運営実績において、利用件数、稼働率、コンベンション誘致件数等一定の成果を上げており、利用者満足度も非常に高い評価を得ている。
- ・稼働率の向上を目指すための料金設定や、施設の利便性向上に向けた取組みなど、収入増加に向けた提案がなされている。
- ・観光部門との連携により、MICE来場者が小倉駅周辺の商店街等へ足を運ぶため、地域の関係者との連携を進める仕組みが期待できる。

9 提案額

254,000千円（平成31年度）

254,000千円（平成32年度）

254,000千円（平成33年度）

254,000千円（平成34年度）

254,000千円（平成35年度）

条件付き公募とする理由

1 北九州国際展示場・北九州国際会議場の設置目的

北九州国際会議場は、平成 2 年に本市の長期構想である「北九州市ルネッサンス構想」に基づき海にひろがるにぎわいの交流都市を目指し、小倉駅北側での国際会議やイベントができるよう設置され、当時から西日本総合展示場と連動した開催を視野に整備された。

北九州国際展示場は、平成 10 年に国の輸入促進地域計画に基づいて、輸入促進基盤施設に位置付けられたアジアインポートマート（A I M）を整備した際に、コンベンション機能を持たせる複合施設として整備された。

上記 2 施設に、公益財団法人北九州観光コンベンション協会の所有する西日本総合展示場を含めた 3 施設は、小倉駅から徒歩圏内で移動できる近接した場所に立地しており、宿泊施設も含めた「小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン」を形成している。利用者の利便性を高めることで更なる集客や交流人口の増加を図り小倉駅新幹線口のにぎわいづくりの創出につながっており、現在も多くのイベントや国際会議などの M I C E 開催の中心地となっている。

2 市の政策実現のための組織

公益財団法人北九州観光コンベンション協会は、昭和 51 年の西日本総合展示場の設置に合わせて設立された財団法人西日本産業貿易見本市協会と、北九州国際会議場の設置に合わせて設立された財団法人北九州コンベンションビューロー、さらに公益社団法人北九州市観光協会と統合し、現在に至っている。展示会や見本市などの主催事業の開催や、国際会議をはじめとした M I C E 開催支援を主な業務としている。

平成 29 年度も、自主事業として年間 9 件の展示会や見本市を開催しており、環境先端技術の紹介を目的とした見本市や介護ロボットを含めた福祉関係展示会など、市の重要施策とマッチした事業を開催している。

また、これまで長年培ってきた経験やネットワークを活かして国際会議の開催支援に取り組んでおり、地元の大学関係者や民間事業者との良好な関係を築くなど、M I C E 開催を通じて本市の地域経済の活性化やイノベーション、ビジネス機会の創出に寄与するための中心的な組織として活動をしている。

3 条件付き公募の実施について

近年、各都市で新たな M I C E 施設の建設計画があるなど都市間競争が激しさを増している。全国的にも小規模な施設である本市としては、より主催者のニーズにきめ細やかに対応するため、大小の展示場や会議室等を複合的に提案することが求められ

ており、今後も施設の一体的な管理運営とMICE誘致を推進するための体制を維持していく必要がある。

そのため本指定管理業務においては、市の政策目的を実現するため、通常の貸館業務だけではなく、MICE誘致や開催の支援をすることを求めている。

当該業務は、専門的な知識に加え、全国の学協会や専門機関とのネットワークの構築、コンベンション誘致のインセンティブとなるMICE開催助成金制度を運用するための高い公益性が求められており、新たに民間事業者に委ねることが困難である。

さらに、平成27年度に国から選定された「グローバルMICE強化都市」事業を通じ、コンベンション協会が中心となって海外の専門家から技術的支援を受け、世界標準となっているMICE誘致の様々な取組みを見做ってきた。その結果、新たなネットワークやブランドイメージの構築、国内や海外の商談会への積極的な参加など、今後もMICE誘致に繋がる取組みを継続して行っていく必要がある。

また、施設管理の面においても、維持管理における柔軟な対応や関係機関との協力体制の構築、施設の稼働率向上への取組みや施設利用者へのフォロー体制など様々な取組みを行っている。その結果、施設利用者のアンケート結果においても高い評価を得ており、本市への来訪者の増加に寄与している。

業務の特殊性からも、ワンストップで施設の予約から開催支援までを行うことができる団体であり、新たな団体や別々の団体が管理することは非効率である。

4 まとめ

施設の設置目的や当該団体の設置経緯及び業務内容などを勘案しても、条件付き公募方式採用の基準に該当する特定の施設であると考えられる。

また、昨年のJNTO（日本政府観光局）が発表する国際会議開催統計において、本市は全国10位となり、直近5年間を見ても毎年着実に件数・順位を伸ばしている状況である。これまでの様々な取組みが奏功しており、北九州観光コンベンション協会が指定管理者候補として条件付き公募方式を採用することが適当である。

小倉駅新幹線口コンベンション施設 指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	公益財団法人 北九州観光コンベンション協会
1 指定管理者としての適性について	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針 「地域ネットワークを活かしたグローバル志向のMICE推進により、都市ブランド力の向上に貢献する」ことを理念に掲げ、小倉駅新幹線口コンベンション施設と、当協会が所有する西日本総合展示場の一体的・有機的な管理運営を行い、観光事業との連携による効果的な情報発信機能を強みとして、施設の設置目的の達成を目指した取り組みを進める。 (2) 安定期的な人的基盤や財政基盤 昭和52年西日本総合展示場のオープン以来、管理運営ノウハウを継承し、様々な資格を有する職員や民間派遣職員など多彩な人材で構成されている。 社会的信用と公益性を持つ公益財団法人として、自主財源の確保と持続可能な財政基盤の確立に努めており、近年の正味財産は毎年黒字で推移するなど、高い財務的安全性と健全性を堅持している。
2 管理運営計画の適確性	(1) 施設の設置目的達成に向けた取り組み 施設運用にかかる要求水準を確保しながら、利用件数や稼働率、来場者数などの目標を達成するため、以下のとおりMICEの推進等に積極的に取り組む。 ・会議室予約の利便性向上、会議室の利用促進 ・国内外の学会・大会主催者への誘致活動、関係団体との連携した誘致活動 ・観光事業との連携によるアフターコンベンション等の充実によるMICE開催地としての魅力向上 ・産業振興型自主事業の強化・継続開催や、新たな自主事業の開発・誘致 (2) 利用者の満足度 利用者満足度の向上を図るため、利用者へのアンケートをはじめとして幅広く利用者の声を収集し、施設の管理運営に反映する。特に、苦情に対してはマニュアルを整備し、適切に対応するとともに、情報の共有により未然に対策を講じている。 また、利用者のニーズを的確に把握し、施設や設備などハード面の要望に、サービスの質の向上などソフト面の充実を図ることにより、多様な利用者のニーズに合致したサービスを提供する。

【効率性】 に関する 取組み	(1) 指定管理料及び収入の見込み これまで引き続きコスト削減に取り組みながら、施設や設備の対応や機能の拡充など、指定管理料等の資金を活用し施設改修等を行っていく。 また、過去の実績等を基に今後の見通しを算定するとともに、利用料金設定を工夫するなど施設の稼働率向上を図り、収入の増加にも取り組む。 (2) 収支計画の妥当性及び実現可能性 支出においては、これまで実施してきた経費節減を継続し、保守点検やサービスを低下させることなく、業務や事業の再編、入札・契約方式の見直し等による主要経費の節減を図る。節減した資金を基に、光熱水費の原価上昇分を吸収し、施設の改修や機能の改善、MICE誘致活動の強化を図る。 収入においては、利用料金収入は過去の実績と今後の利用予約の見通し、利用促進策等を勘案のうえ積算し、指定管理料の大幅な低減を図り、要項に定められた範囲内で、利用料金等収入と管理運営費支出のバランスを維持し、安定した施設の管理運営を実現する。 《提案額》 平成31年度 254,000千円 平成32年度 254,000千円 平成33年度 254,000千円 平成34年度 254,000千円 平成35年度 254,000千円
【適正性】 に関する 取組み	(1) 管理運営体制など 3施設一体の管理運営体制を「施設別」ではなく「機能別」に体系化し、効率的・効果的な施設の管理運営にあたる。 また、現在全国や海外にも連携体制を構築しており、きめ細かな情報収集や広報活動による誘致活動を展開するとともに、今後もより地元関係者との連携を図り、利用者や来場者が小倉駅周辺や市内全域へ足を運ぶ環境づくり等にも取り組む。 (2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など 協会で規定する「個人情報保護規程」や「情報公開要領」に基づき適正に管理するとともに、「コンプライアンス・プログラム」を策定し、職員への研修を通じて職員に周知徹底する。 また、公の施設であることを十分認識し、公正・公平な取り扱いを遵守するとともに、暴力団の排除等市民が安心して利用できる環境づくりに取り組む。 加えて、設備の予防保全に基づいた事故防止に努め、良好な利用環境を提供する。また、危機管理体制も緊急連絡網やマニュアル等を整備しており、万全の体制で緊急時に備えている。

小倉駅新幹線口コンベンション施設 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年 8月 3日(金) 10:00~12:00
平成30年10月12日(金) 10:00~12:00
- 2 場 所 北九州市産業経済局観光にぎわい部内特別会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 大谷構成員、大原構成員、齊藤構成員、南構成員
(事務局) 産業経済局観光にぎわい部長、MICE推進課長、
MICE戦略担当係長、係員

4 会議内容

第1回

○当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。

○検討会の位置づけ及び検討会の進め方等について、事務局より説明。

○構成員の互選により、座長を選出

○条件付き公募方式採用の理由等について事務局より説明。質疑応答。

(構成員) 平成27年に国から選定されたグローバルMICE強化都市事業について教えてほしい。

(事務局) 平成25年度にグローバルMICE都市事業の公募があり、東京や横浜などの7都市が選定され、海外のMICE先進都市から専門家を派遣してもらいコンベンション誘致に係る事例紹介や実務研修を受けた。平成27年度に第二弾として国がグローバルMICE強化都市事業の公募があり、本市も応募し選定された。

(構成員) どのような成果があったのか。

(事務局) 主催者がMICEを開催する際に開催地に何を求めているのか考え、都市としてのプロモーション方法やブランドイメージを確立することから始めた。具体的には、本市を端的に表現するロゴマークやタグラインを作成し、プロモーション映像の作成を行った。加えて、主催者がパンフレットに欲しい情報を体系的に整理し、冊子も再構成する等、より誘致に繋がるようなアドバイスを受けた。

(構成員) 2年間の強化事業の直接的な支援、海外都市の取組みのレクチャーなどはコンベンション協会が受けて修得したということか。

(事務局) 実務を担当するコンベンション協会が中心となって議論をしたが、市も一緒にレクチャーを受け情報を共有している。

(構成員) コンベンション支援業務については、国際会議場や展示場で開催するものも対象となるのか。

(事務局) 今回の指定管理業務は、施設管理に併せてコンベンション支援をすることになっている。支援の対象は、会議場や展示場のみではなく、市内全域、大学や

ホテル等で行われるものも含まれている。

(構成員) コンベンション協会は色々な分野で活動しているが、組織や財務の健全性やガバナンスについて機能しているのか。

(事務局) 公益財団法人ということで3会計に分かれているが、合計すると毎年黒字を達成している。主な要因としては、指定管理業務を受けることによる市からの収入もあるが、利用料金制度を採用しているので、自ら稼がないとマイナスになってしまう制度である。その中で、近年は稼働率も良く、収入も上がっているということは、外因もあるが、団体として努力している結果だと考えている。

代表者は商工会議所会頭で市内企業の動向を知るうえで適任で、専務理事職は市OBが務めており、意思決定や市と歩調を合わせた取組みを行っている。

(構成員) 北九州市のMICEの取組みについて、他都市と比べてどのように感じるか。

(構成員) 主催者側への対応はしっかりしているという印象。実際評判としてもよく聞く。その辺りも実績となって表れていると理解している。アクセスの面からも福岡は人気があると思うが、市としてのブランディングとして、ものづくりや環境といった色がハッキリしていて、市としての戦略に沿うような取組みは評価できる。

(事務局) 学会にも多くの種類があって、やはり工学系や医学系を中心に関連のある学会を開催していただくよう誘致活動を行っており、主催者としても本市で開催して良かったと思ってもらえるよう、都市の魅力を磨いていきたい。

(構成員) 条件付き公募をするにあたり、例えば民間企業からの応募がある可能性はあるのか、また民間企業がすることによる弊害などはあるのか。

(事務局) 全国の都市の中には、民間企業をコンベンションビューローとしているところもある。しかし、本市の特性として西日本総合展示場本館はコンベンション協会が所有しており、指定管理をする2施設と併せて3施設で一体管理をすることで、国際会議や展示会をしている事例もある。本市には大きな箱はないが、複合的な利用をすることによって、他都市との競争ができることがある。また、維持管理コストの面からも個別に管理するよりも一体管理することのメリットが大きいと考えている。

(構成員) 民間企業と競合させることや管理者が別々であることによる機会損失があるということも、もっと強調させることも必要である。

○構成員は質疑応答を受けて各自条件付き公募方式採用の妥当性の有無を記入し発表。

その後、構成員全員で意見交換。

(構成員) これまでの実績や市の政策との親和性を考えると妥当であると考え。しかし、募集対象を限定することは慎重であるべきと考え、一体運営がもたらす北九州市のMICE誘致拡大の効果や個別運営により懸念される不利益を明確化する必要がある。

(構成員) 国際会議開催件数トップ10入りなどの実績や、3館一体管理によるスケー

ルメリットを考えて妥当であると考え。北九州市ならではのターゲットを絞った学会の誘致等、市の取り組みと合っている。

(構成員) これまでの実績や、施設利用者との人脈は一朝一夕には構築できない財産であり強みである。今後もさらなる競争力を発揮してもらい、周辺施設やスタジアムなど新幹線口の集客アップも期待したい。

(構成員) 対象施設をこれまで管理運営を行っている団体は、継続的に公益性の高い取り組みを、諸団体と連携してMICE誘致の成果を上げるとともに、利用者からの高い満足度も実現していると考えられる。MICE誘致は北九州市の最重要課題の一つであり、その中核となる当該施設についても継続的な管理運営が望ましいと考えている。

全構成員、条件付き公募方式採用の妥当性は「有」という意見を受け、検討会を終了。

第2回

○指定管理者候補の選定基準、適否選択の注意事項について、事務局より説明

○申請団体より提案内容のプレゼンテーション

○質疑応答

(構成員) 平成29年度に北九州市観光協会と合併したことで、MICE来場者が小倉駅新幹線口の3施設だけにとどまらず、市内各地に経済的な効果を生み出すことを期待するが、具体的な取り組みを考えているのか。

(申請団体) 来場者が商店街等へ足を運ぶための環境づくりに向けた地域の連携の提案の部分で、MICE来場者が小倉城口の商店街等に足を運んでもらうため、商店街や小倉中央商業連合会と連携し、MICE情報を提供する。また、観光事業部（旧北九州市観光協会）が管理する観光案内所においても、ウェルカムボード等の設置により、おもてなしの雰囲気づくりを小倉駅周辺で行うことを検討している。一方、展示場及び会議場でも、観光資源や商店街の活動を発信するとともに、本協会が事務局を務める小倉駅新幹線口地区振興連絡会等も活用し、新たな人の流れを作る取り組みを考えている。

(構成員) 安全対策事故発生時の対応について、提案内容は理解できるが、待機列の問題等事故の未然防止として、これまでよりさらに力を入れていきたい、こういう工夫をしたいという提案や考えがあれば教えてほしい。

(申請団体) イベントにおける待機列については、先日のTGCの際は、台風等の悪天候が予想され、待機場所として来場者の安全確保のため展示場に隣接する西日本総合展示場本館を無料開放した。その他、炎天下や雨天時の場合は、主催者に対して無料でテントの貸し出しを行っている。施設全体の資源を使い、お客様の安全に配慮した環境づくりに努めていきたい。
また、施設内で来場者が迷うという問題が多い。誘導のためにデジタルサイネージを設置し情報提供しているが、今後より一層、利用者が安全に目的地に着くよう対応していく。

(構 成 員) 利用者満足度や口コミ評価が高いのは承知しているが、SNSで発信された情報や来場者の声を拾い上げて、主催者へフィードバックするような仕組みをつくることで、また、評価の向上につなげていくことができるのではないかと思う。

(申請団体) 全体のなかで共有化しながら少しずつでも改善していく方向で取り組んでおり、ブラッシュアップしていきたい。

(構 成 員) 受動喫煙対策について、国際会議の誘致や子どもを対象としたイベントで特に重要になると思うが、国際的には受動喫煙に対する見方は、我が国に比べ格段に厳しいという認識だが、提案や考えがあれば教えてほしい。

(申請団体) 基本的に敷地内完全禁煙は難しいので、国際会議場であれば、受動喫煙にならないよう、海側に面した一番奥に喫煙場所を設けている。全面的に禁止すると、违法的な喫煙が増えるので一箇所だけで喫煙するよう、主催者に厳しく指導している。展示場も同様に喫煙場所を完全に分離している。厳格な場所の指定と周知を徹底している。なお、電子タバコに関しては、今後対応していく。

(構 成 員) 国際会議については大規模な会議や学会の誘致に力を入れており、特に工学系や医学系を中心に営業している印象がある。国際会議の中でも、人文系・社会科学系等の比較的小規模な学会等にも誘致に取り組むのか。

(申請団体) 小規模の国際会議であっても、誘致件数を重ねることで国際会議都市としてのイメージアップにもつながり、プレゼンスも上げるものだとは認識している。主催者である先生方のモチベーションを上げることが本協会の務めであると考えている。大小に関わらず、会議等の開催支援を今後も継続して取り組んでいきたい。

また、地域の企業や団体と一緒にイベントを作りあげていくことは大変重要であると考えている。

(構 成 員) 台風等でイベントが開催できない場合の対応はどのようにしているのか。

(申請団体) 基本的には不可抗力で中止等の場合は、いろいろな事情を勘案して、料金はとらない。主催者都合の場合は、料金をとるという基準で対応している。キャンセルが発生した場合は、そこから営業を始めて埋める場合もあるが、欠損になることもある。

○構成員全員で意見交換

(構成員) 小倉城口との連携について、北九州観光コンベンション協会だけでは解決できない部分もあるので、市の支援も必要であると考えている。

(構成員) コンベンション施設が駅に近いため、用事が済んだらそのまま帰ってしまうので、そこが逆にデメリットであると感じる。

(事務局) TGC終了後に、小倉城口へ向かう人もいたので、人の流れはないわけではない。小倉城口との連携強化を進めるにあたって、今年度初めて食のイベントをペDESTリアンデッキで開催する予定であったが、台風で中止となった。

市としてもにぎわいにつながるよう支援していく。

(構成員) 小倉駅から旦過市場へ導線を繋ぐことで、途中にある商店街や飲食店が目に入るようになる。旦過市場は観光資源として小倉が誇れるエリアだと思うので、うまく表現できたらいい。

(事務局) 学会の終了が通常18時頃で、旦過市場は夕方までに閉店する店舗が多い。小倉城口の商店街等に足が向くようきっかけは作っているが、その先の受け入れが難しいのが現状である。イベント情報等を提供することで、営業時間を延長するなど受け入れの態勢を作ってもらおうよう期待している。現在の指定管理者である北九州観光コンベンション協会は、飲食情報を載せたマップを作って来場者に配布している。市としても、来場者が小倉城口へと足を運ぶよう取組んでまいりたい。

(構成員) 今まで、ユニークベニューではどのような取組みをしていたのか。

(事務局) 二年前に小倉城の5階展望室で一度行ったことはあるが、エレベーターがなかったため、人の移動や飲料等の運搬が困難であった。来年エレベーターが設置されることから、是非、学会等で小倉城を利用してもらいたい。その他、いのちのたび博物館や三井倶楽部でも実績がある。また、来秋、関門海峡ミュージアムもリニューアルオープンするので是非利用してもらいたい。

(構成員) MICEにおいて関門連携をすることは可能か。

(事務局) MICEは都市間競争であるが、関門という地域は全国的にも有名である。そのため、来場者にはアフターコンベンションとして下関も案内しており、関門連携は重要であると考えている。ただし、会議場所を分散して使用することは主催者側から見ても難しいのではないかと。

(構成員) 近年、北九州観光コンベンション協会の自己資本比率は非常に高く、民間では考えられない。

(事務局) 観光事業部を除き、市から北九州観光コンベンション協会に補助金等は支出していない。指定管理をして、それ以外は自分たちの運営努力で利益を上げている。健全な状態であると考えている。

○意見交換を行った後、各構成員の審査結果を取りまとめ、検討会を終了した。

(構成員) 全項目について『適』と評価。総合的に十分よく練られた提案であり、着実な遂行が期待できる体制等も有しており、指定管理者として適格である。

(構成員) 全項目について『適』と評価。これまでの実績を踏まえ、管理運営体制及び計画は妥当と評価する。九州内に新たに新設されるMICE施設があるなかで、現状に満足せず、更に魅力あるコンベンション誘致に期待する。

(構成員) 全項目について『適』と評価。長年の経験と近年の目標達成の高さから見ても適正は有りとする。今後も周辺地域との連携を強化して、経済効果が上がるよう期待する。

(構成員) 全項目について『適』と評価。運営実績、利用者の評価の高さ、市の政策と

もリンクした形で運営計画がされており適正と考える。引き続き、利用者満足度の向上や利用促進に努めていただくことに期待する。なお、小倉駅周辺のにぎわいづくりに関して、観光協会との合併による効果を活かして、来場者のニーズも拾いながら施設運営を行っていただきたい。

小倉駅新幹線口コンベンション施設
(北九州国際展示場・北九州国際会議場)
指定管理者

提 案 書

団体名： 公益財団法人北九州観光コンベンション協会

1- (1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針

ア 施設を管理する上での理念、基本方針について

私たちは、「元気発進！北九州」プラン（北九州市基本構想・基本計画）、北九州市新成長戦略を踏まえ、アジアのゲートウェイ機能やマーケット戦略をはじめとしたグローバルな視点を持ち、MICE 推進と市民文化の発展に寄与することで、北九州市ブランドの向上に貢献します。

1 私たちの施設管理に対する「理念」

公益財団法人北九州観光コンベンション協会（以下、「当協会」または「私たち」と表記）は、公益財団法人西日本産業貿易コンベンション協会と、公益社団法人北九州市観光協会が合併し、平成 29（2017）年 4 月に誕生しました。

「小倉駅新幹線口コンベンションゾーン」の中核施設である**北九州国際展示場**ならびに**北九州国際会議場**と、当協会が所有する**西日本総合展示場の一体的、有機的な管理運営**とともに、**MICE 事業と観光事業との連携による効果的な情報発信機能**は当協会ならではの強みです。

私たちは、グローバルに挑戦し続けていく姿勢を堅持しつつ、長年培ってきた信頼のおけるコンベンション施設運営に基づく、内外の様々なネットワークの活用と当地域に根差した特色ある MICE 事業の推進により、北九州市の都市ブランドの向上や地域ブランドなど当地域の誇りの再発見と新たな魅力創造に貢献してまいります。

理念

私たちは、
**地域ネットワークを活かした、グローバル志向の
MICE 推進により、都市ブランド力の向上に貢献します。**

公益財団法人北九州観光コンベンション協会
設立目的

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興、北九州市における観光事業の健全な振興に資するとともに、コンベンションの誘致や支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資し、もって北九州地域を中心とするわが国経済及び文化の健全な発展と、不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的とする。

北九州国際展示場
設置目的

展示会、見本市の開催の場を提供することにより、産業及び貿易の振興ならびに国際交流の推進を図る。

北九州国際会議場
設置目的

国際会議等の開催の場を提供することにより、国際化の推進及び市民文化の向上を図る。

MICE（マイス）とは、Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive Tour（報奨・招待旅行）、Convention（国際会議、大会・学会）、Exhibition・Event（展示会・イベント）の頭文字をとった用語で、多くの集客・交流が見込めるものを言います。

2 管理運営に係る3つの基本方針



内外に保有する人的・組織的ネットワークを駆使して、多様な魅力的な MICE 事業を展開します。

- 平成 28(2016)年国際会議開催件数(日本政府観光局(JNTO)発表)において、国内 10 位にランクイン。さらなるランクアップを目指し、国際化と地域への波及効果の増加を図る。
- 国内外、地域のネットワークを活用した、自主事業の展示会での来場者・出展社の多様なニーズへの対応による地域産業振興への貢献。
- 地域のにぎわい創出に寄与する集客力の高いイベント等の開催や、新たなコンベンション施設利用の開拓。

施設の保全と機能向上に努め、常に利用者目線による安心と信頼の施設運営を実施します。

- これまでの施設運営の実績を生かした、だれでも利用しやすい施設・設備機能の改善。利用者視点のきめ細かなサービスの提供による、稼働率・リピート率の向上、来場者の増加。
- 小倉駅新幹線口コンベンション施設と西日本総合展示場の3施設の一体的運用による、様々な利用ニーズへの対応。
- 組織と職員の能力向上による顧客満足度向上と、当協会と関係事業者が一丸となった安心・安全、快適な施設運営への取り組み。

MICE 事業と施設運営を通じて拠点集客力を高め、観光資源の活用や地域関係団体との連携により域内の人流をつくります。

- MICE 事業と観光事業の協働・連携による新たな MICE 誘致のアイデア創出と、来場者への北九州市の魅力の発信。
- 地域の関係者・団体とのネットワークや観光資源を活用した、来場者をマチナカへ足を運んでもらうための環境づくり。
- 北九州市ならではのアフターコンベンションやユニークベニュー等の提供とまちぐるみのおもてなし気運の醸成。

3 3つの基本方針に基づいた7つの取り組みの柱

当協会は、基本方針に基づき、次の7つの柱に取り組みます。

- (1)国際会議を重視した精力的なMICE誘致開催活動
- (2)国・県・市の政策を反映した産業振興に貢献する主催事業の機能強化
- (3)利便性と顧客満足度の高い施設サービスの提供
- (4)にぎわいと新たな領域開拓による施設利用促進
- (5)業務改善、チームワーク、個人の創造性を育む組織体制の構築
- (6)観光資源、地域団体と連携したまちぐるみのおもてなし気運の醸成
- (7)持続可能な施設運営に向けた環境経営

(1)国際会議を重視した精力的な MICE 誘致開催活動

- 国際会議をはじめとした MICE 誘致に向けて、アジアを含めた学会のキーパーソンへのアプローチを強化し、北九州市の情報を積極的に発信していきます。
- 国内外で開催される商談会や MICE エキスポ等に出展し、当施設や当地の魅力をアピールします。
- 誘致開催助成金の活用をはじめ、施設・団体間との緊密な連携で構築した広域ネットワークによる情報交換や連携事業に取り組むなど、MICE の誘致・営業支援策を強化します。

(2)国・県・市の政策を反映した産業振興に貢献する主催事業の機能強化

- 北九州市の「新成長戦略」を踏まえた産業振興型の自主事業における産学官連携事業の開催等を推進し、先端技術情報を発信します。
- 自主事業の展示会等において、地域産業の発展や課題解決に必要な技術情報を提供するとともに、国際取引の拡大・技術提携の動きを支援する国際ビジネス商談会・セミナーを開催するなど、将来のアウトプットにつながるビジネスマッチング機能をさらに強化します。
- 新産業の創出などを支援するため、小規模でもテーマ性の高いインキュベーション型の自主事業を拡充します。
- MICE 研究を深化させることによって、自主事業等の専門性を高め、さらにすぐれた産業振興策に取り組めます。

(3)利便性と顧客満足度の高い施設サービスの提供

- 利用者・来場者の声を反映したきめ細かいサービスを提供するとともに、苦情・トラブルの未然防止や再発防止策を講じ、持続的な利用者の確保に努めます。
- 利用者目線での施設の利用形態の見直し、新たなサービスや設備の提供等を推進し、利用者・来場者がより快適に利用できる施設運営を行います。
- 当協会と警備・設備・清掃などの関係者の連携体制により、施設・設備の適切な維持管理と巡回・機械警備を実施し、日常の安全・安心の確保に努めます。

(4)にぎわいと新たな領域開拓による施設利用促進

- 3施設の一体運営はもとより、ミクニワールドスタジアム北九州など周辺施設とも連携し、小倉駅新幹線口コンベンションゾーンの振興を図ります。
- 国内の団体との緊密な連携を活かした多様なコンベンションの誘致や展示会・イベント主催者への営業強化を図り、MICE 開催拡大に取り組みます。
- イベント分野で新たな自主事業を立ち上げるなど、様々な角度から自主事業の魅力アップを図り、市域のにぎわいづくりの中核を担います。
- 展示会や会議だけでなく、新たな利用形態を提案し、利用者の新規開拓に取り組みます。

(5)業務改善、チームワーク、個人の創造性を育む組織体制の構築

- 営業推進会議など、組織横断的な会議体による機動性の高い組織体制を構築し、管理運営上の問題点を迅速に解決します。
- 職員能力向上のための教育研修を実施するなど人材育成に努めます。
- 指定管理者モニタリングに合わせて PDCA マネジメントによる事業評価を実施し、効率的・効果的な管理運営を行います。

(6)観光資源、地域団体と連携したまちぐるみのおもてなし気運の醸成

- 観光事業部との協働により、自主事業、会議・大会開催時における臨時売店開設や北九州市ならではのアフターコンベンションの企画、ユニークベニュー等の活用等を図り、都市の魅力やブランド力の向上に努めます。
- 観光事業部のスキルを活かし、3施設と中心市街地との間の広報連携の可能性や、来場者のまち歩き支援に関する検討を進めます。
- 観光事業部による特産品の PR、販売を通じて地域産業の振興と北九州市の PR にも寄与します。

(7)持続可能な施設運営に向けた環境経営

- 創意工夫による収入の確保とともにエコアクション21に基づき環境に配慮した経費節減につながる厳格なコスト管理を両立し、法人経営の安定化に努めます。
- 指定管理者としての責任と役割を自覚し、個人情報保護をはじめとするコンプライアンスの遵守を徹底します。
- 公の施設の管理運営にあたり、公益法人としての社会的意義や貢献意識を十分発揮し、平等・公平利用の確保に努めます。
- 防火・防災(津波対策を追加)・避難訓練などにより、職員の危機管理意識を高めるとともに、危機管理マニュアルに基づく質の高いリスクマネジメントを行います。

1- (2) 安定的な人的基盤や財産基盤

ア 管理運営を行なっていくための人的基盤、財産基盤について

当協会は、昭和 51(1976)年の設立以来、西日本総合展示場〔昭和 52(1977)年〕、北九州国際会議場〔平成 2(1990)年〕、北九州国際展示場〔平成 10(1998)年〕のオープン当初から各施設の管理運営を行っております。

その中で豊富なノウハウや経験を培ってきた人材や多彩な人材を基盤とし、施設運営能力を効果的かつ効率的に発揮していきます。また、平成 23(2011)年6月に、より高い社会的信用と公益性を確保した公益財団法人に移行、平成 29(2017)年4月にMICE事業と観光事業を併せ持つ北九州観光コンベンション協会が発足するなど、時代の変化に対応した自主・自立の精神をもって組織運営を行います。

1 豊富な経験を有する人的基盤

西日本総合展示場の稼働当初から、地域経済の活性化や産業貿易・学術文化の向上に資する自主事業をいち早く立ち上げるとともに、各種コンベンションの誘致開催実績を積み重ねてきました。

今後も施設の管理運営に必要な**専門的知識、ノウハウ、産学官のネットワークなどを蓄積・継承**して参ります。

(1)組織構成にかかる人的基盤

- 当協会は北九州商工会議所の利島康司会頭を理事長とし、役員は産業界(北九州商工会議所等経済団体、企業)、行政(北九州市)等により構成されています。当協会の職員は、プロパー職員(協会直接採用・21名)をはじめ、北九州市派遣職員(6名)、民間企業派遣職員(7名)、嘱託員・人材派遣など(32名)、**多彩な人材で構成**されています。(平成 30(2018)年9月1日現在)
- 経験豊富なプロパー職員をはじめ、専門性のある派遣職員など職員全員が各々の能力を最大限に活用することで、**施設運営能力を効果的に発揮できる組織体**となっています。

(2)施設の管理運営、事業の誘致開催にかかる人的基盤

- 展示場整備・運営ノウハウの蓄積し、効率的な施設の保全・管理運営能力を協会プロパー職員が中心となって継承しています。このため、小倉駅新幹線口コンベンション施設を合わせた**3施設一体利用も可能**となっています。
- 自主事業の開催は、イベント業務管理者の資格をもつプロパー職員が中心となって取り組んでいます。事業ごとに業界団体等との人的ネットワークを構築し、事業の全工程を担える人材を有しており、**地域に密着した事業を持続的に開催できる人的基盤**が整っています。
- 会議・大会等の誘致については、平成 2(1990)年設立の北九州コンベンションビューローの活動方針とノウハウを継承し、高い専門性を持った職員が相互に**情報収集力・機動力を発揮する充実した誘致体制**を整えています。

2 健全な財政基盤

当協会は、公益法人会計の財務三基準、関係施行令及び施行規則を遵守した適切な法人運営にあたっております。**会計面では平成 20 年度基準(平成 21 年度 10 月改正)である「公益法人会計基準」に沿って**、財務諸表を作成しています。

今後も自主財源の確保策の積極的な展開と合わせて持続可能な財政基盤の確立を実現することで、安定的な施設の管理運営を行います。

(1)正味財産増減状況

- 平成 26 (2014) 年度から平成 29 (2017) 年度までの正味財産増減状況では、当期純利益率相当の指標は各会計年度 4 %以上のプラス(黒字)で推移しており、当協会の正味財産期末残高は対前年度と比較して各会計年度で順調に増加※しています。

※平成 27 (2015) 年度に市に対して 1 億円の寄付(出損金の一部返還)を行った結果、正味財産期末残高が減じていますが、その 1 億円を加味したところでは、平成 27 (2015) 年度、平成 28 (2016) 年度とも残高が増加しているとみることができます。

(千円)

科目	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
当期収益合計	1,023,676	1,052,756	1,043,375	1,368,887
当期費用合計	944,501	982,789	968,994	1,244,739
当期一般正味財産増減額	79,175	69,967	74,381	124,148
当期純利益率相当	7.7%	6.6%	7.1%	9.1%
一般正味財産期末残高	2,105,203	2,175,170	2,249,552	2,454,091
指定正味財産期末残高	1,331,436	1,197,334	1,155,812	1,132,566
正味財産期末残高	3,436,639	3,372,504	3,405,364	3,586,657

(2)貸借対照表および短期資金状況

- 自己資本比率相当の指標は各会計年度で約 90%を維持しています。また、短期資金状況である流動比率をみても各年度で 100%を大きく超えているなど、**高い財務的安全性と健全性**を堅持しています。

〈貸借対照表〉

(千円)

	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
資産合計	3,759,616	3,746,991	3,792,579	4,030,778
負債合計	322,977	374,487	387,215	444,121
正味財産	3,436,639	3,372,504	3,405,364	3,586,657
自己資本比率相当	91.4%	90.0%	89.8%	89.0%

〈短期資金〉

(千円)

	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
流動資産	361,364	369,242	445,435	661,939
流動負債	167,972	214,135	238,891	262,212
流動比率	215.1%	172.4%	186.5%	252.4%

1- (3) 実績や経験など

ア 同様、類似の業務の実績について

私たちは、当施設をはじめ、類似の施設を長年にわたり、安全、効果的かつ効率的に管理しています。今後も施設と市民・地域を繋ぐ役割をしっかりと果たしていきます。

1 長年にわたる、同様及び同類施設の管理実績

(1) 施設の管理経験年数

- 当協会における、施設の管理運営実績は下記のとおりです。
- 北九州国際展示場と北九州国際会議場においては、指定管理者として第一期～第三期にわたって指定管理業務を確実に遂行して参りました。

管理実績		指定管理 対象施設
北九州国際展示場 20 年間(1998 年より)	北九州国際会議場 28 年間(1990 年より)	
		
西日本総合展示場 41 年間(1977 年より)	北九州国際展示場 AIMビル3F 展示場 13 年間(2005 年より)	
		

(2) 各施設オープンからの運営実績

- 私たちは、西日本総合展示場がオープンした昭和 52(1977)年以来、施設の利用促進及び集客力の向上ならびに地域産業の振興・発展に寄与してきました。
- さらに、政策とリンクした事業、市周年事業、施設オープン記念事業の実施や平成2(1990)年からはコンベンションの誘致活動をスタートさせるなど、自主自立を基本として積極的な誘致・営業に取り組み、施設利用者の拡大を図ってきました。

	西日本総合展示場 (1977 年～2017 年)	北九州国際展示場 ※AIM 含む (1998 年～2017 年)	北九州国際会議場 (1990 年～2017 年)
利用件数	4,024 件	2,360 件	20,288 件
来場者数	3,845 万人	1,112 万人	271 万人

		H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	平均
西日本 総合展示場	利用件数	70 件	72 件	65 件	67 件	68 件
	稼働率	78.7%	77.5%	78.5%	80.3%	78.7%
	来場者数	396,194 人	301,570 人	269,081 人	323,682 人	299 千人

2 指定管理対象施設(当施設)における管理運営実績

(1) 主な管理実績

- 「施設にかかわるすべての関係者がサービス提供者」という考え方にに基づき、当協会職員と施設関係者が一丸となって施設の管理保全を行っています。
- 私たちは、施設管理に真摯に取り組んでおり、これまで設備の不具合や管理体制の不備による施設の一時閉鎖や利用の取り止めに至るなどの事例は一件も発生していません。
- 当施設における、第三期指定管理期間における主な維持管理の実績は下記のとおりです。

	北九州国際展示場	北九州国際会議場
H26 (2014)	■ 組立式スクリーン更新 ■ 名古屋市施設との相互利用割引料金の設定	■ ミーティングテーブル・椅子更新 ■ カーペット張替 ■ 高層階用揚水ポンプ更新
H27 (2015)	■ 地下汚水槽等排水ポンプ更新 ■ 展示場西側インターロッキング改修 ■ 屋根・雨樋・外溝の雨漏れ・溢水対策	■ ミーティングテーブル更新 ■ 美観維持改修(外壁塗装・タイル補修) ■ 無線LANアクセスポイント機器更新
H28 (2016)	■ 地下雑排水槽等排水ポンプ更新 ■ 非常用発電装置蓄電池更新	■ イベントホールテラス壁・床石改修 ■ サブホワイエ照明LED化 ■ 館内空調設備修繕
H29 (2017)	■ 給排気ファンモーター軸受け更新 ■ 緊急ガス遮断弁操作盤内蔵バッテリー更新 ■ トイレ温水便座更新	■ 貯水槽ポンプ更新 ■ 喫煙所前舗装改修

(2) 施設全般における事業運営状況(※第三期指定管理期間)

① 施設稼働状況

北九州国際展示場

新たな利用分野の開拓に努めることで、稼働率・利用件数とも**すべての年度において目標を達成**

【具体的な取り組み】

- ✓ 自主事業の継続的な開催
- ✓ 金融機関によるビジネスマッチングの場
- ✓ 試験会場
- ✓ スポーツ大会会場

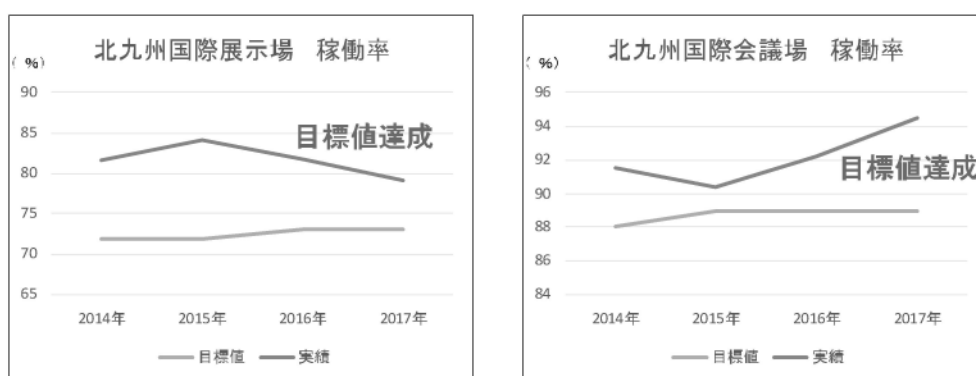
北九州国際会議場

東日本大震災の影響や民間会議室の増加による競合の激化などにより利用件数の減少。そのため、誘致に注力し、稼働率や利用者数の面で**成果を上げることに成功**

【具体的な取り組み】

- ✓ 国際会議や医学系学会の誘致
- ✓ 学会・大会などの誘致

			H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	平均
国際北九州 展示場	利用件数	目標値	140 件	142 件	144 件	144 件	142 件
		実績	159 件	166 件	163 件	179 件	166 件
	稼働率	目標値	72.0%	72.0%	73.0%	73.0%	72.5%
		実績	81.7%	84.1%	81.8%	79.2%	81.7%
	来場者数	実績	460,516 人	659,177 人	574,985 人	686,724 人	595 千人
国際北九州 会議場	利用件数	目標値	680 件	690 件	690 件	700 件	690 件
		実績	577 件	548 件	568 件	557 件	562 件
	稼働率	目標値	88.0%	89.0%	89.0%	89.0%	88.7%
		実績	91.5%	90.4%	92.2%	94.5%	92.1%
	来場者数	実績	71,082 人	67,423 人	71,119 人	63,615 人	68 千人



② 平成 29(2017)年度大規模展示場利用状況(件数は「大規模展示場連絡会基準」より集計)

- 大規模展示場連絡会の展示施設の利用状況は、下表のとおりです。
- 当地域の西日本総合展示場を含む展示施設は、中小規模の展示会が小まめに利用する地域密着型が基本となっており、利用面積割合は全国比で小さいものの、**利用件数については東京、幕張に次いで第3位と健闘しています。**
- これは当協会が自主事業の開催や3施設の複合利用など、大規模利用だけでなく、地域の企業や団体などに対するきめ細かな営業により、新規利用、継続利用者の確保に取り組んできた結果と考えます。

施設名(展示場面積㎡)	件数:割合		面積㎡:割合	
幕張メッセ(72,000)	292	18.5%	16,946,438	25.4%
東京ビッグサイト(80,660)	312	19.8%	24,030,905	36.1%
パシフィコ横浜(20,000)	195	12.3%	5,573,300	8.4%
ポートメッセなごや(33,946)	139	8.8%	5,066,644	7.6%
インテックス大阪(70,078)	215	13.6%	8,802,500	13.2%
北九州国際展示場・西日本総合展示場(16,517)	237	15.0%	2,399,919	3.6%
福岡コンベンションセンター(15,552)	189	12.0%	3,826,106	5.7%
全展示場	1,579	100%	66,645,812	100%

(3) 利用料収入と管理運営費支出(※第三期指定管理期間)

- 利用収入については、民間の展示会等の利用増や閑散期のイベントの誘致、試験会場など新たな分野の開拓など、収入確保に努力した結果、利用料収入は年々増加しました。
- 管理運営費については、利用料収入の推移を予測しつつ、委託業務の見直し、修繕・光熱水費の節減管理など、相当のコストダウンを図り、各年度収支の黒字化を達成しました。

		H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
利用料収入	目標値	306,151	308,480	311,008	314,083
	実績	331,844	352,224	380,440	401,086
	達成率	+8.4%	+14.2%	+22.3%	+27.7%
管理運営費支出	予算額	624,761	625,970	628,354	631,193
	実績	606,703	592,159	618,493	624,446
	削減率	-2.9%	-5.4%	-1.6%	-1.1%

※小倉駅新幹線口 コンベンション施設合算

(4)コンベンション開催支援事業の実績(※第三期指定管理期間)

- コンベンション開催支援については、学会・大会キーパーソンへの働きかけ、PCO(会議等企画運営専門企業)との連携、コンベンション開催助成金の活用などによる誘致営業に取り組んだ結果、誘致開催件数は年平均 281 件と、平成 30(2018)年度目標の 195 件を上回りました。

	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	平均
国際規模	63 件	75 件	90 件	121 件	87 件
全国規模	103 件	91 件	73 件	75 件	86 件
九州規模他	132 件	113 件	102 件	86 件	108 件
合計	298 件	279 件	265 件	282 件	281 件

(5)コンベンション開催支援事業の実績(※第三期指定管理期間)

- 国際会議や学会、大会を誘致し開催に結び付けていくため、当協会の有するネットワークや北九州市の資源を活用した誘致営業活動に取り組みました。
- 日本政府観光局(JNTO)が発表した平成 28(2016)年の「日本の国際会議開催件数」において、北九州市は105件となり、初めて国内トップテンに入りました。

順位	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)
1位	東京都(23 区)	東京都(23 区)	東京都(23 区)	東京都(23 区)	東京都(23 区)
2位	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市
3位	京都市	横浜市	京都市	仙台市	京都市
4位	大阪市	名古屋市	大阪市	名古屋市	大阪市
5位	札幌市	仙台市	札幌市	札幌市	札幌市
6位	仙台市	札幌市	神戸市	札幌市	札幌市
7位	札幌市	仙台市	仙台市	千里地区	北九州市
8位	つくば地区	北九州市	北九州市	北九州市	千里地区
9位	仙台市	札幌市	神戸市	札幌市	札幌市
10位	札幌市	仙台市	仙台市	千里地区	北九州市
11位	つくば地区	北九州市	北九州市	北九州市	千里地区
12位	北九州市	つくば地区	つくば地区	広島市	広島市

3 利用者満足度(利用者アンケート)**(1)北九州国際展示場**

- 「職員の対応が丁寧。施設が広く、設置がしやすい。駅に近く利便性が高い」との評価を多くいただき、**各年度 90%超える利用満足度を達成**しています。
- 「案内表記がわかりづらい」、「地下駐車場から展示場等への誘導がわかりにくい」という意見や、施設の老朽化への意見もあり、今後は場内の誘導サイン・案内看板の改善、設備の維持管理などにきめ細かく取り組んでいきます。

**(2)北九州国際会議場**

- 会場設備及び職員対応について、ほとんどの利用者に満足との評価をいただき、**各年度 90%を超える利用者に「再度利用したい」と良好な評価**をいただいています。
- 一方で北九州国際展示場と同様、案内表記が分かりにくいとの意見があり、引き続き誘導サイン・案内看板の改善への取り組みが必要です。



イ 施設の管理運営に関する専門的知識や資格などについて

施設運営については、専門的知識や資格を有した職員を配置することで、質の高い管理運営を行なっています。

1 専門性のある職員の配置

(1)施設の管理運営

- これまでの3施設を連携させた管理運営で蓄積してきたノウハウと、防火管理者・防災管理者など、施設の管理運営の上で必要となる資格を取得した職員により円滑に業務を遂行することが可能となっています。

(2)自主事業の開催

- 開催にあたってのノウハウが大変重要となります。当協会ではイベント業務管理者の資格を持ち、長年経験を積んだプロパー職員が展示会を担当するとともに、若手職員の指導にあたっています。
- 今後の担当者育成の一環として、イベント業務管理者の資格取得をすすめています。

(3)会議・大会等の誘致

- 会議・大会等の誘致については、平成2(1990)年設立の北九州コンベンションビューローの活動方針とノウハウを継承し、豊富な経験を有するプロパー職員と、旅行会社からの派遣職員が高い専門性を持って相互に情報収集力・機動力を発揮する充実した誘致態勢を整えています。

【資格取得職員数】

資格	人数	資格	人数
イベント業務管理者	10 名	総合旅行業務取扱管理者	5名
防火管理者	7名	旅程管理主任者	5名
防災管理者	2名	国内旅行業務取扱管理者	1名
危険物取扱者	1名	簿記2級以上	5名
高所作業車運転技能者	1名	英検2級以上	3名
応急手当普及員	5名	旅行業英語検定A級	1名
普通救命講習Ⅰ	11 名	ハングル能力検定3級	1名
福祉住環境コーディネータ	1名	産業カウンセラー	1名

平成 30(2018)年9月現在

2- (1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み

ア 施設の管理運営方針(事業計画)について

当施設の将来像を見据えながら、当施設の機能を最大限に発揮できる指定管理者として、確実かつ発展的な管理運営を実施してまいります。

1 当施設における年度別目標設定

(1) 全国にみるコンベンション施設の現状

- 次期指定管理期間中には、福岡市の展示場増設、熊本市・長崎市などでのコンベンション施設の新設が計画されるなど、国内における都市間競争はより一層激化することが予想されます。
- このような状況も勘案して利用件数・稼働率等の目標値を設定します。

【次期指定管理期間における MICE 施設の主な新增設】

施 設	供用時期	規 模 (主な施設)
群馬コンベンションセンター	H32(2020)年春	多目的展示施設 10,000 m ² 、メインホール 1,341 m ²
東京ビッグサイト	H31(2019)年 4月、7月	青海展示棟ホールA・B 約 23,000 m ² 南展示棟 約 5,000 m ² ×4
パシフィコ横浜	H32(2020)年春	1F多目的ホール 約 7,600 m ²
愛知県国際展示場	H31(2019)年9月	展示ホール 10,000 m ² ×6
ポートメッセ名古屋	H34(2022)年10月	新第1展示館 20,000 m ² 以上
奈良県コンベンション施設	H32(2020)年春	大会議室 約 2,100 m ² 、中会議室 約 300 m ² ×4
姫路市文化コンベンションセンター	H33(2021)年秋	展示場 約 4,000 m ² 大ホール 約 2,000 席、中ホール 約 700 席
マリンメッセ福岡第2期	H33(2021)年4月	展示場 5,000 m ² 以上
長崎市交流拠点施設	H33(2021)年11月	コンベンションホール 約 3,000 m ² 、展示ホール 約 4,000 m ²
熊本城ホール	H31(2019)年夏	メインホール 約 2,300 席、イベント・展示ホール 1,630 m ²

(2) 当施設の年度別目標

- 目標設定にあたっては、上記にある全国のコンベンション施設の現状も勘案したうえで、第三期指定管理期間中の実績をもとに設定します。

- ① 自主事業の継続開催と新規事業の検討状況
- ② これまでの誘致・営業により、当施設で開催確率の高い案件
- ③ 利用促進策により、今後、新規利用を働きかけていく案件
- ④ 不定期開催(数年ごとに開催)などの利用者の流動性



【年度別目標】

		H31 (2019)	H32 (2020)	H33 (2021)	H34 (2022)	H35 (2023)	合計 (平均)
国際 展示場	利用件数	163	163	163	163	163	815 件
	稼働率 A	80%	80%	80%	80%	80%	80.0%
国際 会議場	利用件数	570	570	570	570	570	2,850 件
	稼働率 B	90%	90%	90%	90%	90%	90.0%
MICE(コンベンション等) 誘致件数 C		250	250	250	250	250	1,250 件
来場者数	国際 展示場	60 万人	60 万人	60 万人	60 万人	60 万人	300 万人
	国際 会議場	6万人	6万人	6万人	6万人	6万人	30 万人
	西日本総合 展示場	30 万人	30 万人	30 万人	30 万人	30 万人	150 万人

【最低限の要求水準 / H31(2019)～H35(2023)】

	稼働率	来場者数	誘致件数
北九州国際展示場	78%	600,000 人	—
北九州国際会議場	90%	60,000 人	—
コンベンション等誘致	—	—	250 件

2 MICE 推進のための具体的な取り組み

MICE を推進し、当施設の利用者・来場者を増加させるためには、MICE の各カテゴリーの特性に適合した多面的・多角的アプローチが必要です。私たちは、長年にわたる経験とノウハウに、多彩な人的資源とネットワークを組み合わせることで、「国内有数の MICE 開催都市として、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する」事業に意欲的に取り組みます。

MICE の分類		推進に必要な視点	重点活動
M	Meeting (会議・研修・セミナー等)	・施設認知度の向上 ・短いスパンでリピート利用が見込めるため、次回利用につながる、きめ細かなサービスの推進	・広報や情報発信 ・料金プランの工夫 ・サービス向上策
I	Incentive Tour (報奨・研修旅行等)	・北九州市ならではのアフターコンベンション、ユニークベニューの開拓と情報発信	・観光事業部、市有施設等との連携 ・情報発信
C	Convention・Conference (学会・大会・国際会議等)	・数年に1回のものも多いため、長期にわたる息の長い誘致活動 ・学会・大会の事務局やキーパーソンとのネットワークの強化	・誘致活動の強化 ・支援内容の拡充 ・ネットワーク
E	Exhibition/Event (展示会・見本市、イベント等)	・営業活動と自主事業の強化の両面からの積極的な取り組みの推進 ・ビジネス領域のExhibitionと、にぎわいづくりに資するEventのバランスを保ち、特に前者は、市の新成長戦略や国・県の産業政策の動向の注視	・展示会事業の強化 ・イベントの新規実施 ・営業活動の強化

M > I > C > E Meeting(会議・研修・セミナー)の推進

(1) 会議室の利用者の予約プロセスの利便性向上

- 当施設は、JR小倉駅に直結した抜群の立地条件にあり、会議・研修・セミナー等の利用に適した環境にあります。そうした地の利を活かし、積極的な広報活動ときめ細かいサービス向上策により、会議・研修・セミナーの利用促進に取り組みます。

① 会議室検索サイトへの登録

会議室のPRを全国規模で積極的に行うため、全国の会議施設が登録する会議室検索サイトへの登録を行います。会議室検索サイトは、会議室利用予定者が全国の会議室を探す際に利用するもので、新規顧客獲得のツールとして活用します。

② ウェブ問合せシステム

会議室の空き状況の問い合わせや、概算金額を簡単に計算できるウェブ問合せシステムを導入し、利便性向上を図ります。

③ 受付期間の拡大

中小会議室の受付開始について、利用者より3か月前では準備期間が短いとの意見があり、利用者のスケジュール感に合わせるため、受付開始時期を3か月前から6か月前に変更することを提案します。

(2) 自主事業セミナーなどによる会議室の利用促進

- 自主事業においてセミナーの実施本数を増やします(年間実施独自目標 100 件)。
- 出展者にもプライベートセミナーなどの開催を積極的に働きかけるとともに、出展勧誘の際の訪問先企業にも「駅に直結した会議室」をアピールし、稼働率・開催件数の向上につなげます。
- 北九州国際展示場会議室の夜間利用など、利用時間帯の拡大による利用促進策を検討します。

【2017 年度：自主事業で実施したセミナー】

セミナー名	件数	参加人数	自主事業
北九州ロボットフォーラム総会・セミナー	11	620	西日本製造技術 イノベーション 2017
関連セミナー			
エコテクノ開催記念基調講演	33	2,074	エコテクノ 2017 ～地球環境ソリューション展/ エネルギー先端技術展～
環境ビジネスアライアンス マッチングセミナー in 九州			
アジア環境ビジネスセミナー ～我が社はこうしてベトナムへ進出しました～			
エコテクノエネルギー先端技術展			
基調講演セミナー			
燃料電池・水素エネルギー 専門技術セミナー			
中小企業テクノフェア記念講演会			
西日本国際福祉機器展 事務局主催セミナー他	48	1,912	西日本国際福祉機器展
合 計	93	4,663	

Meeting(会議・研修・セミナー)利用件数の独自目標

- 第四期指定管理期間中の小倉駅新幹線口コンベンションゾーン3施設における会議施設の年平均利用件数は、**1,100 件以上**を目標とします。
- うち、北九州国際会議場の年平均利用件数は、**570 件以上**を目指します。

M > I > C > E Incentive Tour(視察・報奨・研修旅行)の推進

- 企業が社員等のモチベーション向上を目的に行うインセンティブ・ツアーについては、企業からツアーの企画提案を受注する旅行会社へのセールス活動や北九州市上海事務所等との連携した取り組み等が功を奏し、北九州市への誘致件数は増加傾向にあります。
- 表彰式やバンケットも伴う比較的大規模の大きなインセンティブ・ツアーを受け入れることができるよう、地元事業者と体制整備を進めるとともに、旅行会社への継続的なセールス活動や商談会へ積極的に参加することで、北九州市への誘致・開催を推進していきます。

M I C E Convention(国際会議、学会・大会)の推進

- 国際会議や学会、大会を誘致し、開催に結び付けるには、地元開催のホストとなる大学・研究機関等や宿泊・飲食・観光などの地元事業者との日常的なネットワークの構築が欠かせません。
- 当協会が、九州工業大学、北九州市立大学、九州歯科大学、産業医科大学の4大学と締結した「コンベンション誘致及び開催に関する連携協定」や「ローカルホスト交流会」の実施を通じ、大学・研究機関等との連携を深めています。
- 首都圏のキーパーソンへ積極的に誘致活動を推進するため、「北九州MICE倶楽部」を開催し、人的ネットワークの継続拡大を図ります。
- 地元 MICE 事業者と「北九州市グローバル MICE 推進協議会」を設立し、チーム北九州として一丸となり誘致・開催支援活動等に取り組んでいます。
- 北九州国際会議場・北九州国際展示場に加え、当協会所有の西日本総合展示場との3施設一体での活用提案を行えるのが特徴であり、展示会を伴う学会や、学会に関連する分野の展示会の誘致・開催実績もあります。
- 長年培った当協会のネットワークと都市の強みを活かし、次のような様々な誘致活動を戦略的にを行います。

(1)国内の団体との緊密な連携を活かした誘致活動

- 当協会は、北九州市や観光庁などの公的機関、日本政府観光局(JNTO)などのMICE推進機関、北九州産業学術推進機構(FAIS)などの産業支援機関などとも緊密な連携関係を有しています。これらのネットワークを最大限に活かし、必要に応じて連携しながら効果的に誘致活動を行います。

(2)学会・大会主催者への誘致活動

- 工学、環境、医学など、北九州市の特性や強みを活かせる分野を中心に、国際会議や大規模コンベンションの誘致を行うため、学会に関係が深い学識経験者等のキーパーソンをはじめ、首都圏の学協会事務局や大学・研究機関、PCO※等への営業活動を積極的に実施します。
- 国内外の商談会・トレードショーに参加しネットワークの拡大を図っていきます。
※PCO=Professional Congress Organizer の頭文字をとったもので、同時通訳や会場の設営など、コンベンション等を支援する専門サービスを行う団体のこと

(3)国際会議誘致のグローバル化対応

- 北九州市が、「グローバルMICE強化都市(現 グローバルMICE都市)」に選定されたことを契機として、私たちは、世界約100か国、約1,100の業界団体が所属し、国際会議の開催状況を収集・発信しているICCA(国際会議協会 本部:アムステルダム)に加入しました。
- このような国際会議のなかには、誘致活動を行う団体が開催情報を分析し、ターゲットの学会協会本部に対して誘致提案書(ビッドペーパー)を提出し、開催地が決定されるプロセスのものもあることから、当協会も国際会議誘致のグローバル化に対応できるよう体制整備をすすめ、海外とのネットワーク拡充や情報収集の強化を図っていきます。

【H29(2017)年度誘致・支援した主な学会・大会実績】

規模	名 称	会 場	規 模 (外国国数、 人数)
国 際	The 34th Live Demonstration in KOKURA (第 34 回小倉ライブ)	西日本総合展示場新館 AIM	5,000 人 (10 カ国 130 人)
	10th Asia Academy of Management Conference, 10th Taiwan Academy of Management Conference	北九州国際会議場	500 人 (20 カ国 500 人)
	The 12th International Conference on Damage Assessment of Structures DAMAS2017	北九州国際会議場	300 人 (16 カ国 195 人)
	The 16th International Conference on Intelligent Software Methodologies, Tools, and Techniques (SOMET_17)	北九州国際会議場	300 人 (17 カ国 120 人)
	The 14th International Conference on Modeling Decisions for Artificial Intelligence(MDAI2017)	九州工業大学 戸畑キャンパス	222 人 (11 カ国 69 人)
	第 34 回製剤と粒子設計シンポジウム	リーガロイヤルホテル小倉	738 人 (3 カ国 10 人)
	Asia Pacific Symposium on Safety (APSS2017)	北九州国際会議場	468 人 (8 カ国 426 人)
	International Conference Asia-Pacific Hybrid and Organic Photovoltaics (AP-HOPV18)	北九州国際会議場	600 人 (14 カ国 390 人)
全 国	2017 九州ロービジョンフォーラム in 北九州	北九州国際会議場	502 人
	平成 29 年度 池坊全国大会・理事会、評議員会	西日本総合展示場新館 リーガロイヤルホテル	4,000 人
	第 55 回日本小児歯科学会大会	西日本総合展示場新館 AIM	3,000 人
	2017 ウェルディング・フォーラム in 西日本	西日本総合展示場新館 AIM	19,352 人
	平成 29 年度 第 34 回全国少年少女レスリング選手権大会	北九州市立総合体育館	6,000 人
	第 27 回日本神経回路学会全国大会	北九州国際会議場	696 人
	第 65 回日本職業・災害医学会学術大会	北九州国際会議場	900 人
九 州 ・ 西 日 本	九州北部税理士会第 52 回全国統一研修会	北九州国際会議場	800 人
	九州山口医師卓球大会	北九州市立総合体育館	5,200 人
	平成 29 年度 第 34 回九州高等学校選抜剣道大会	北九州市立総合体育館	5,000 人

【池坊全国大会】



【ウェルディング・フォーラム】



【H31(2019)年度以降で開催が決定している主な学会・大会】

規模	コンベンション名	開催時期	会場	参加人数 (延べ)
国際	The 2019 Asian Control Conference (ASCC2019)	H31(2019)年 6月	北九州国際会議場	2,500 人 (10 カ国 800 人)
	International Conference on Industrial Engineering & Other Applications of Applied Intelligent (IEA/AIE 2021)	H31(2019)年 7月	北九州国際会議場	800 人 (20 カ国 700 人)
	The 19th International Conference on Intelligent Software Methodologies, Tools and Techniques (SOMET 2020)	H31(2019)年 9月	北九州国際会議場	300 人 (17 カ国 280 人)
	The 37th International Symposium on Automation and Robotics in Construction (ISARC 2018)	H31(2019)年 11 月	北九州国際会議場	800 人 (7 カ国 700 人)
	The 5th Congress of Asian Pacific Federation of Societies for Reconstructive Microsurgery (5th APFSRM)	H32(2020)年 11 月	北九州国際会議場	500 人 (10 カ国 300 人)
全国	日本分析化学会 第 79 回分析討論会	H31(2019)年 5月	北九州国際会議場 AIM	1,500 人
	海洋開発シンポジウム 2019	H31(2019)年 7月	北九州国際会議場	700 人
	第 39 回日本骨形態計測学会	H31(2019)年 7月	北九州国際会議場	1,000 人
	第 67 回全国商業教育研究大会兼、第 52 回九州地区高等学校商業教育研究大会	H31(2019)年 8月	北九州国際会議場	1,600 人
	平成 31 年度高専フォーラム	H31(2019)年 8月	北九州国際会議場	1,050 人
	日本歯周病学会第 62 回秋季学術大会	H31(2019)年 10 月	北九州国際会議場 西日本総合展示場新館 AIM	6,000 人
	第 17 回日本うつ病学会総会	H32(2020)年 7月	北九州国際会議場 AIM	2,000 人
	第 43 回日本美容外科学会総会	H32(2020)年 7月	北九州国際会議場 AIM	1,600 人
九州・ 西日本	日本褥瘡学会九州沖縄地方会学術集会	H31(2019)年 5月	北九州国際会議場	2,800 人
	第 23 回日本救急医学会九州地方会	H31(2019)年 6月	北九州国際会議場	800 人
	第 72 回電気・情報関係学会九州支部連 合大会	H31(2019)年 9月	九州工業大学	10,000 人
	第 135 回 西日本整形・災害外科学会学術集会	H32(2020)年 6月	北九州国際会議場	1,000 人

MICE (コンベンション等) 誘致件数の目標

○第四期指定管理期間中の北九州市内へのMICE(コンベンション等)誘致件数は、年平均誘致件数 250 件以上 を目標とします。

M > I > C > E Exhibition / Event(見本市・展示会・イベント)の推進

- 一般的な大規模展示場の指定管理者は、施設管理が中心業務となっているのに対し、当協会では、8事業を自主事業として実施しています。
- 自主事業の実施数は、全国展示場連絡協議会69団体のなかでもトップクラスです。
- 北九州国際展示場の稼働日数の約20%、来場者数の約25%を自主事業が占めています。

(1)産業・貿易振興型の自主事業の推進

- 産業・貿易の振興による地域社会の発展に貢献するため、北九州市の新成長戦略などを踏まえ、既存事業のリニューアルや新規自主事業の開発などに取り組みます。

① 既存自主事業の持続的な開催

- 既存の自主事業については、企画内容の充実や出展企業の増加を図るなど、事業の質を高める取り組みを進め、今後とも持続的な開催に注力します。

取り組みの方向性

- ✓ 産学官連携の推進（北九州市立大学、九工大や西日本工業大学との連携）
- ✓ 東アジア市場とのビジネス交流の促進
- ✓ 新産業創業支援（COMPASS や fabbit との連携）
- ✓ 地域産業の指針となる新たな産業分野の紹介
- ✓ 地域企業とのビジネスマッチングの拡大

重点取り組み項目

✓ 既存展示会の国際化

- ①近年、海外との取引拡大や技術交流、海外からの来場促進など、国際化のニーズが高まっていることから、平成 27 (2015) 年に釜山市国際展示場 (BEXCO) と相互協力協定 (MOU) を結び、展示会の相互交流や共同開発、環境展と福祉機器展におけるブース交換などを通じて国際的な展示会開催のノウハウ蓄積に取り組む。
- ②ベトナム・ホーチミンでのBEXCO主催のENTECHベトナムにおいて、九州の環境産業団体との協力のもと企業7社が出展し、ベトナム市場開拓事業を展開。
- ③中国上海市で開催されているWieTECH (環境技術展) に北九州市上海事務所と協力して出展。市場調査と北九州市のSDGsの取り組みを紹介するなど、アジアからの主催展示会の誘客に向けてPRを実施。

✓ ビジネスマッチングの推進

- ①地域企業とのビジネスマッチングを推進するため、地元NPOのコーディネーターによる出展者の地域企業への事前PR、会場でのマッチング事業を実施。
- ②コールセンターを活用した来場促進や出展者・来場者のニーズをボードに張り出して会場内でマッチングを図る「問題解決伝言板(企業交流ボード)」の設置など、新たなビジネスマッチングの機会を創出。

【既存自主事業の持続的実施案件】

自主事業	初回開催	内 容
西日本製造技術イノベーション	H25(2013) (1961)	製造現場のものづくり支援をテーマに、自動車・ロボット(IoT)・新素材をターゲットとした技術展示会 2013 年「西日本総合機器展」をリニューアル
西日本国際福祉機器展	H11(1999)	「地域包括ケア」に政策が動く中で、家庭における高齢者・障がい者の自立支援に役立つ福祉機器・用具関連の展示会
エコテクノ (地球環境ソリューション展)	H5(1993)	低炭素・循環型社会の次に来る環境社会に向けた環境技術やアジア環境市場開発への取り組みをテーマとした環境ビジネス見本市
エコテクノ (エネルギー先端技術展)	H16(2004)	再生可能エネルギー、高度利用技術(燃料電池、水素エネルギー、蓄電池など)の展示会ならびに充実したセミナーの開催
エコ・ベンチャー・メッセ	H5(1993)	ベンチャー・大学・機関などマッチングによる環境技術の取引市場拡大事業
中小企業テクノフェア in 九州	H4(1992)	九州・沖縄・山口の中小企業の製品、加工品等を展示し、販路開拓や相互の技術交流を図る展示会
ふくおか産業技術振興展	S49(1974)	福岡県内の中小企業の加工品、製品の展示会を通じた受注拡大支援事業
西日本陶磁器フェスタ	S54(1979)	伝統産業振興のために、西日本の陶芸産地を中心とした全国の窯元・作家が一堂に会する陶磁器の展示・販売会

② インキュベーション型自主事業の開発・推進

- 幅広い産業分野を対象に、新産業の創出や新たなビジネスモデルの創造につながる可能性のあるコンテンツを紹介する、小規模でもテーマ性の高いインキュベーション型の展示会・イベントの開発に積極的に取り組みます。

取り組みの方向性

- ✓ 産業振興型自主事業の強化（フェアインフェア・併催）
- ✓ 九州の市場にふさわしい新たなビジネス分野の開発
- ✓ シーズ・ニーズの探索（事業の拡大可能性の追求）
- ✓ 既存事業との相乗効果の促進(定着促進)
- ✓ 自主事業全体での SDGs の推進

重点取り組み項目

✓ SDGs 未来都市の推進

平成 30(2018)年8月、北九州市が「SDGs未来都市」に選定されたことを受け、SDGsの告知や事業化に向けた支援を実施します。

アジアの展示会での北九州SDGsの紹介や、エコテクノにおける環境リサイクルやエネルギー等の問題解決に向けたSDGs未来展の開催、福祉分野での世界の福祉機器の紹介など、SDGsのゴールに向けて問題解決に取り組んでいきます。